

SUWA CENTRAL AREA VISION 2023

参考資料

# 上諏訪駅周辺 まちなか未来ビジョン







SUWA CENTRAL AREA VISION 2023

# 上諏訪駅周辺 まちなか未来ビジョン

## 参考資料

## Contents

---

- 1 調査項目
- 2 人口の現状と見通し
- 3 経済・財政の現状と見通し
- 4 産業の現状と見通し
- 5 暮らしの現状と見通し



参考資料

# 1

## 調査項目

大項目		項目
人口の 現状と見通し	人口	諏訪市の人口推移
		他都市の将来人口推計
		3階級別人口構成
		人口ピラミッド（2020・2045）
		人口動態の推移（自然増減と社会増減）
		転入・転出の推移（2010-2014）
		年齢階級別純移動数の時系列分析
		DID※人口・人口密度
		人口メッシュの変化（2020年・2040年）
		上諏訪駅周辺の65歳以上の人口（2000年・2020年）
経済・財政の 現状と見通し	経済	公示地価推移
	経済	地域経済循環図（2018年）
	財政	一般会計歳入の推移
		一般会計歳出の推移
		財政偏差比較（近隣自治体との比較）

※DID（人口集中地区）：Densely Inhabited District

原則として人口密度が1平方キロメートル当たり4,000人以上の基本単位区等が市区町村の境域内で互いに隣接して、それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に5,000人以上を有するこの地域

出典：総務省統計局

大項目		項目
産業の 現状と見通し	産業全般	産業構造（従業者数）
		産業構造（売上高）
		産業別特化係数（2016年）卸売・小売業、製造業
		製造品出荷額などの推移
		産業偏差比較（近隣自治体との比較）
	商業	南信地区の商圈構造《全品目平均》（2019）
		年間小売販売額の推移
	観光	観光客入込数・観光消費額の推移
		観光客入込数（日帰り・宿泊）の推移
		令和元年度上諏訪温泉宿泊客数
		諏訪市外国人宿泊客数の推移
		居住都道府県別延べ宿泊者数（日本人）の構成割合(2019)
		居住都道府県別延べ宿泊者数（日本人）の推移
		他都市宿泊客数の推移

大項目		項目
暮らしの 現状と見通し	交通	JR上諏訪駅 乗客数
		自動車保有台数
		交通状況図
	機能・施設など	都市機能（施設配置）
		徒歩圏カバー率
		土地利用状況
	安全・安心	空き家・低未利用地分布
		浸水（100年に1度の確率）
		土砂災害
		安全・安心
	教育・福祉	教育
		福祉（高齢者など）
	市民意向	意向結果概要



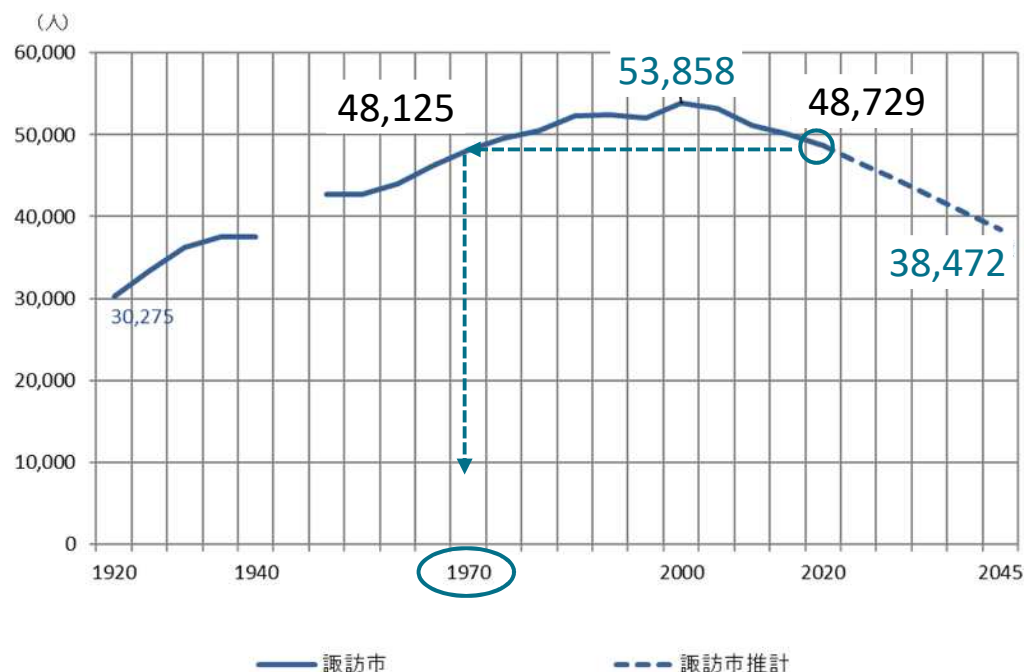
参考資料

# 2

## 人口の現状と見通し

- ・諏訪市の人口は、2000年をピークに、今後減少傾向にあり、2020年時点の人口（48,729人）は、1970年時点と同等程度

■諏訪市の人口推移

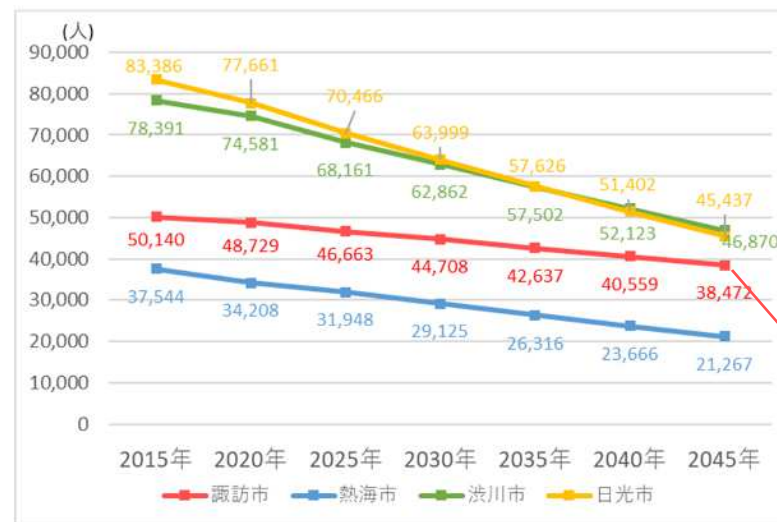


※2020年以前の人口は国勢調査  
1945年の国勢調査は未実施

出典：国勢調査 2020, 将来人口推計値\_国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」2018

- ・諏訪市は、比較都市の中では人口減少のスピードが最も緩やか
- ・諏訪市の人口は、2045年には38,472人、2020年の約79%と推計

■他都市の将来人口推計



2045年人口比  
(基準年2020年)

日光市  
59%

渋川市  
63%

諏訪市  
79%

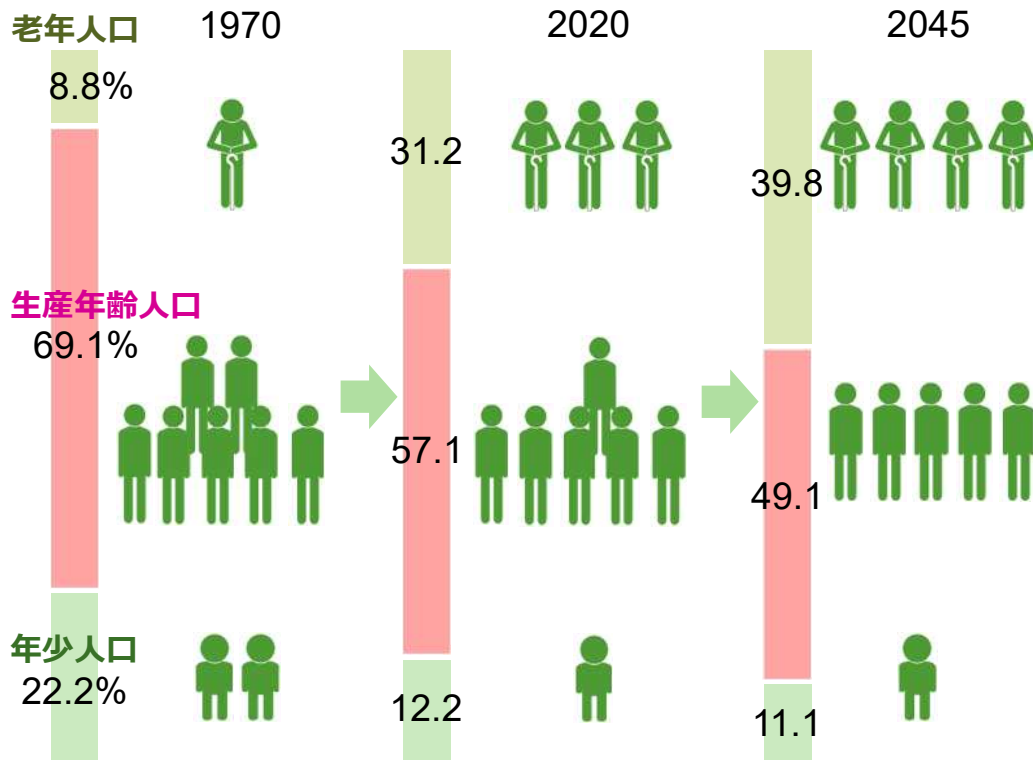
熱海市  
62%

※2015・2020年人口は国勢調査

出典：国勢調査 2020, 将来人口推計値\_国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

- 1970年に比べ、老年人口比率は3倍以上に増加
- 2045年には、年少人口比率は1970年の半分、生産年齢人口は3割減、老年人口は4割増

### ■ 3階級別人口構成

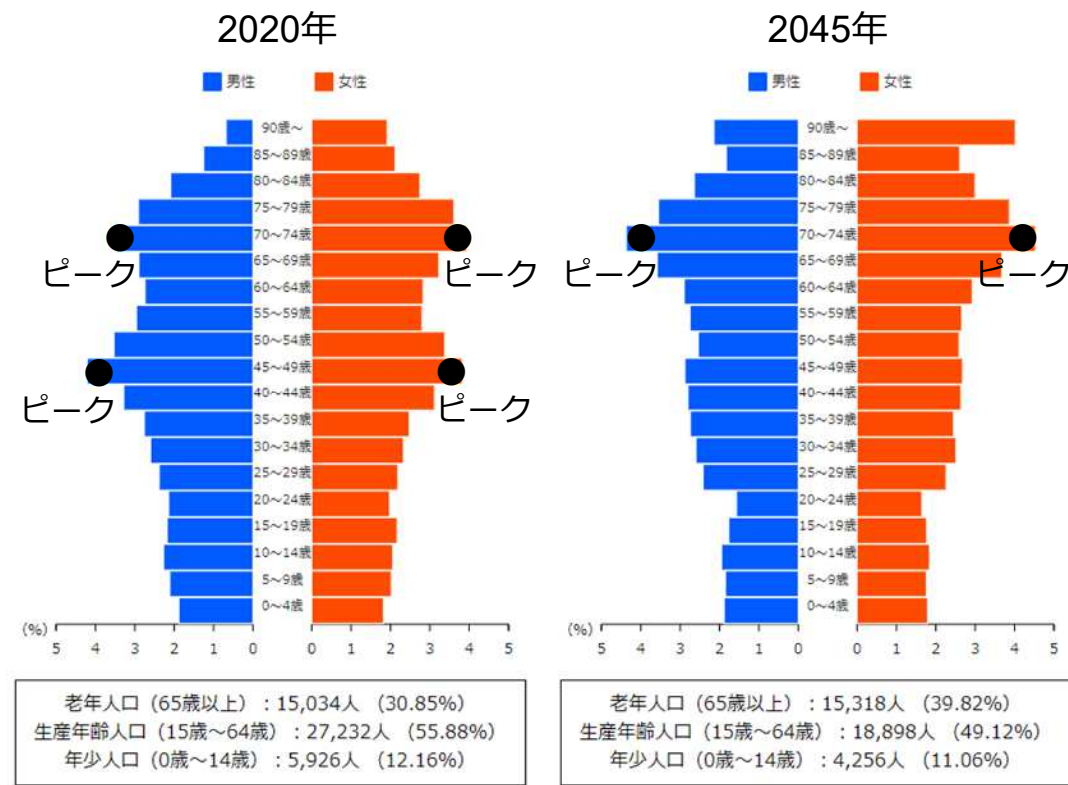


※総人口には年齢不詳人口も含むため、三区分人口割合の合計が100%となっていない（1970、2015）

出典：国勢調査 2020, 将来人口推計値\_国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」2018

- 2020年時点では、人口のピークが2か所あるが（70～74歳・45～49歳）、2045年には、74歳以下のピラミッドが逆三角形状になる

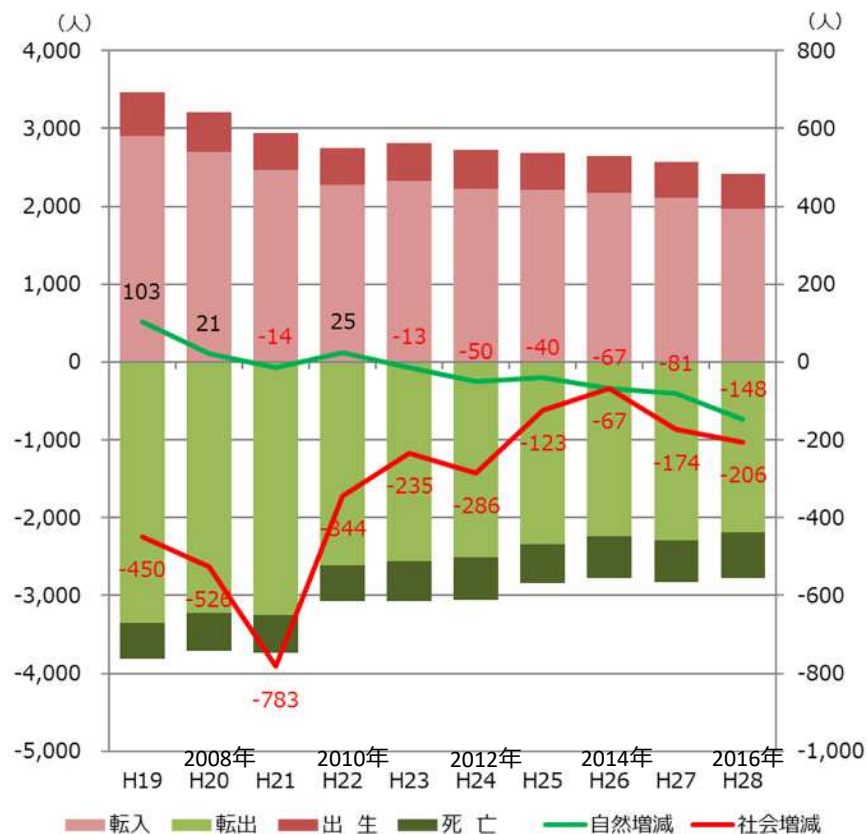
### ■ 人口ピラミッド（2020・2045）



出典：RESAS

- 自然増減は、減少傾向
- 人口増減は、自然増減よりも社会増減の影響が大きい

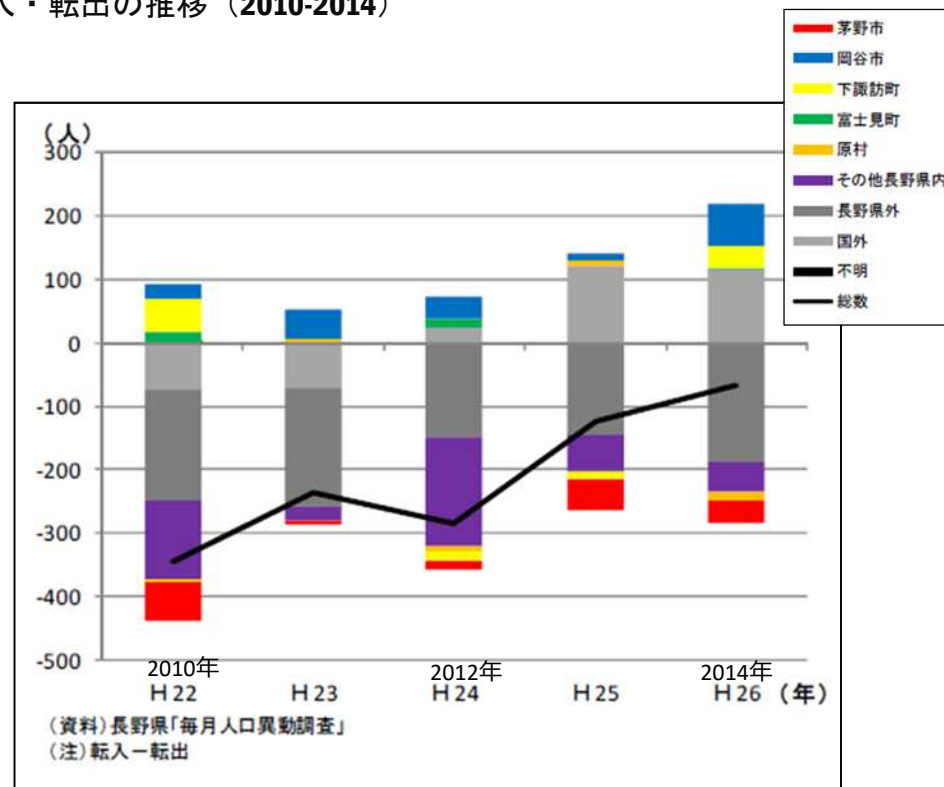
■人口動態の推移（自然増減と社会増減）



出典：諏訪市の統計（H28），資料：長野県「毎月人口異動調査」より作成

- 2014年には岡谷市（約60人）や下諏訪町（約20人）、国外（100人以上）からの転入が多くなっている。しかし、茅野市などの長野県内の市町村や長野県外への転出が転入を上回っている

■転入・転出の推移（2010-2014）



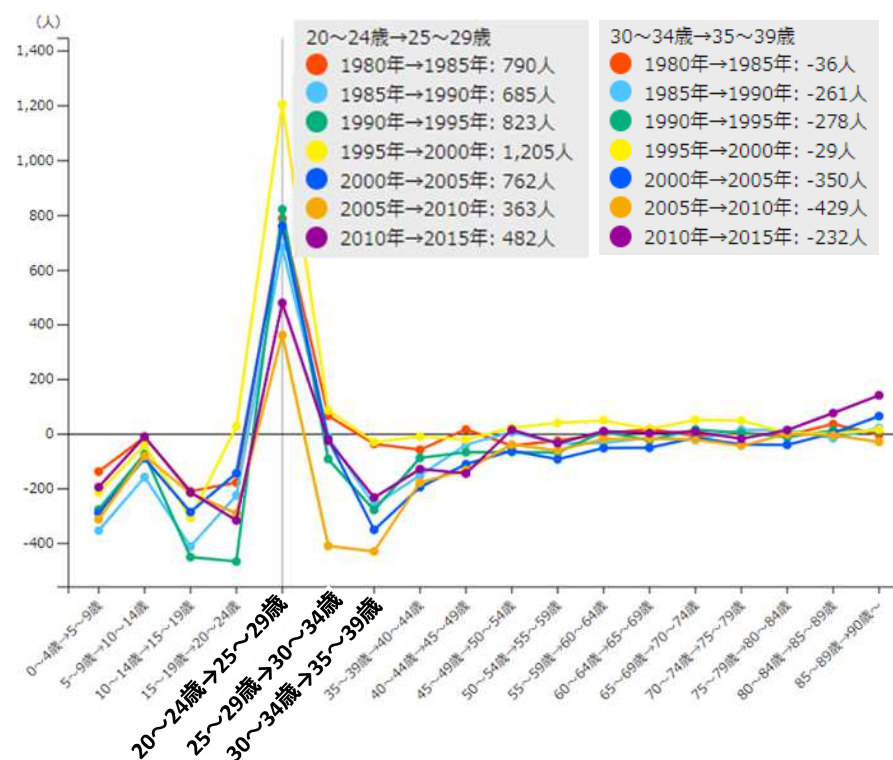
出典：諏訪市人口ビジョン, 資料：長野県「毎月人口異動調査」



- 就職の時期（20～24歳が25歳～29歳になる5年間）に諏訪市への転入が転出を大きく上回る
- 進学期と出産・子育て期の30代の流出増が顕著

### ■年齢階級別純移動数の時系列分析

1980年→1985年 1985年→1990年 1990年→1995年 1995年→2000年 2000年→2005年 2005年→2010年  
 2010年→2015年

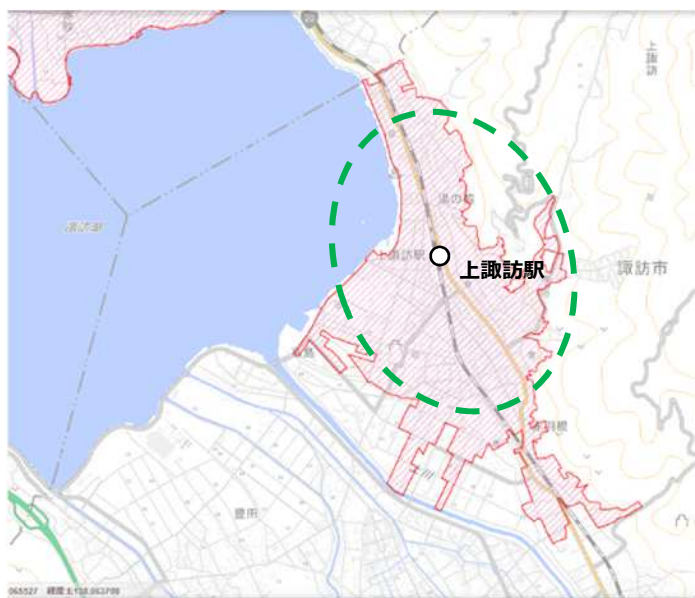


出典：RESAS

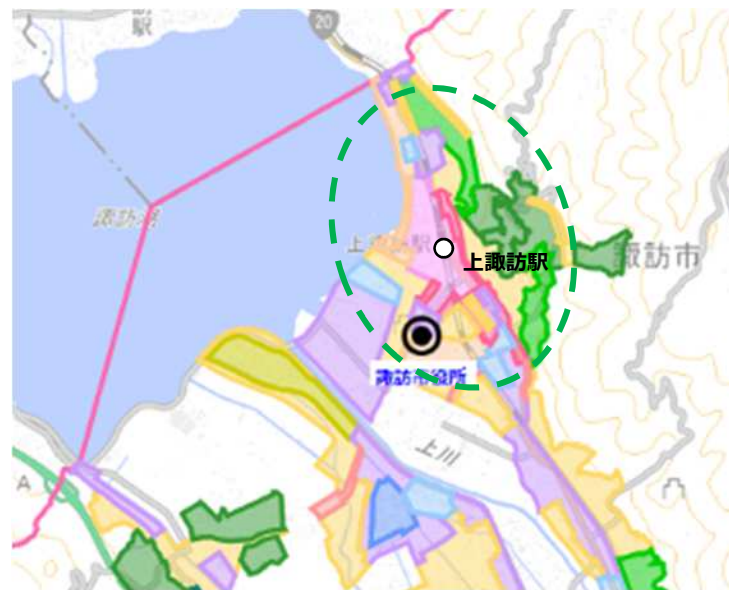
- ・約50年前と比較して、DID人口が5割近く減少、一方でDID面積は1km<sup>2</sup>（約3割）拡大
- ・既成市街地の低密度化が進行
- ・諏訪市は、DID（居住エリア）と主な観光エリアが重なっている

#### ■DID人口・人口密度

年	人口 (人)	DID人口 (人)	DID面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/ha)
2020	48,729	14,381	約4.0	約36
1970	48,125	27,789	約2.9	約96



DID (2020)



用途地域※ (2017)

#### ※用途地域

- ・住居、商業、工業など市街地の  
大枠としての土地利用を定めるもの（13種類）
- ・用途地域が指定されると、各目的  
に応じて、種類ごとに建築できる建  
物の用途、容積率、建ぺい率など  
の建築規制が定められている

出典：国土交通省資料

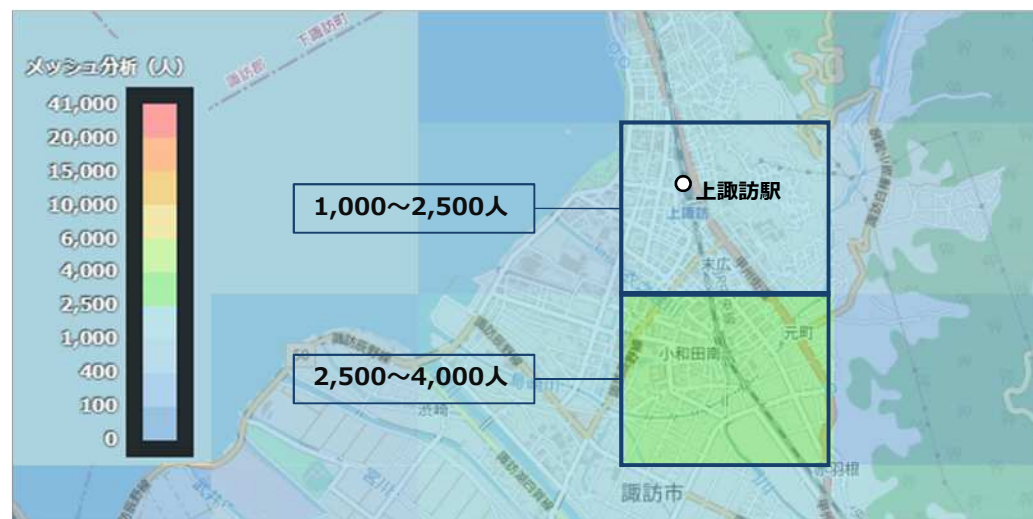
出典：国勢調査, jSTAT MAP, MapExpert.net

- 約20年後（2040年）には、上諏訪駅周辺を含むエリア（1kmメッシュ）は人口が減少

#### ■人口メッシュの変化（2020年・2040年）



2020年（人：1kmメッシュ）

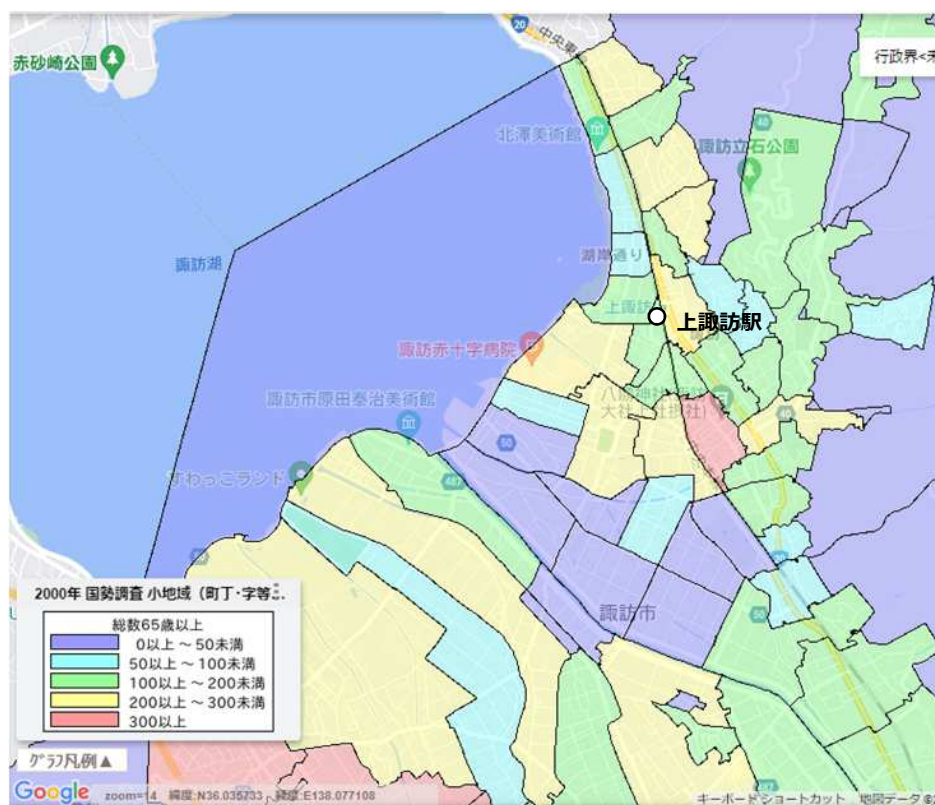


2040年（人：1kmメッシュ）

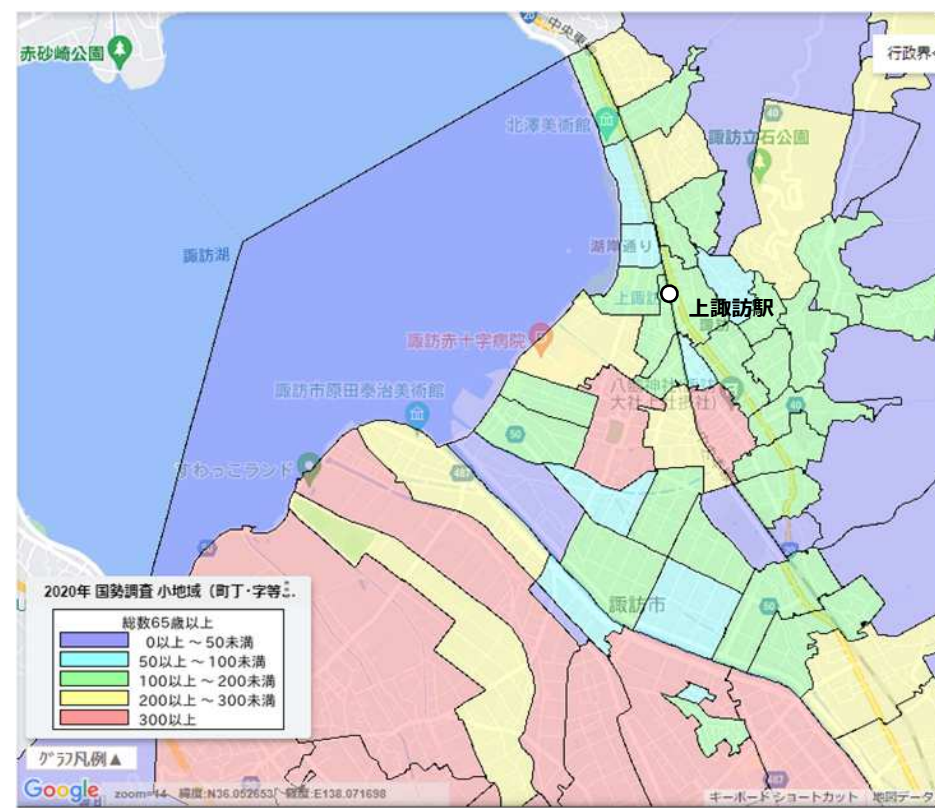


- 多くのエリアで、65歳以上人口が増え、高齢化が進み、特に駅周辺以南の65歳以上の人口が多い

### ■上諏訪駅周辺の65歳以上の人口（2000年・2020年）



2000年



2020年

出典：国勢調査2000・2020, jSTAT MAP



## 総括

項目	現状と見通し	概況
諏訪市の人口推移	<ul style="list-style-type: none"> <li>諏訪市の人口は、2000年をピークに、今後減少傾向にあり、2020年時点の人口（48,729人）は、1970年時点と同等程度</li> </ul>	<p>諏訪市では既に人口減少が進展。特に上諏訪駅周辺以南での人口減少・高齢化が顕著。</p> <p>市外への転出も多い一方で、就職期の年齢層で、諏訪市への転入が転出を大きく上回っている。</p>
他都市の将来人口推計	<ul style="list-style-type: none"> <li>諏訪市は、比較都市の中では人口減少のスピードが最も緩やか</li> <li>諏訪市の人口は、2045年には38,472人、2020年の約79%と推計</li> </ul>	
3階級別人口構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>1970年に比べ、老年人口比率は3倍以上に増加</li> <li>2045年には、年少人口比率は1970年の半分、生産年齢人口は3割減、老年人口は4割増</li> </ul>	
人口ピラミッド（2020・2045）	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年時点では、人口のピークが2か所あるが（70～74歳・45～49歳）、2045年には、74歳以下のピラミッドが逆三角形になる</li> </ul>	
人口動態の推移 （自然増減と社会増減）	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然増減は、減少傾向</li> <li>人口増減は、自然増減よりも社会増減の影響が大きい</li> </ul>	
転入・転出の推移 （2010-2014）	<ul style="list-style-type: none"> <li>2014年には岡谷市（約60人）や下諏訪町（約20人）、国外（100人以上）からの転入が多くなっている。しかし、茅野市などの長野県内の市町村や長野県外への転出が転入を上回っている</li> </ul>	
年齢階級別純移動数の 時系列分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職の時期（20～24歳が25歳～29歳になる5年間に）に諏訪市への転入が転出を大きく上回る</li> <li>進学期と出産・子育て期の30代の流出増が顕著</li> </ul>	
DID人口・人口密度	<ul style="list-style-type: none"> <li>約50年前と比較して、DID人口が5割近く減少、一方でDID面積は1km<sup>2</sup>（約3割）拡大</li> <li>既成市街地の低密度化が進行</li> <li>諏訪市は、DID（居住エリア）と主な観光エリアが重なっている</li> </ul>	
人口メッシュの変化 （2020年・2040年）	<ul style="list-style-type: none"> <li>約20年後（2040年）には、上諏訪駅周辺を含むエリア（1kmメッシュ）は人口が減少</li> </ul>	
上諏訪駅周辺の65歳以上の人口 （2000年・2020年）	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くのエリアで、65歳以上人口が増え、高齢化が進み、特に駅周辺以南の65歳以上の人口が多い</li> </ul>	



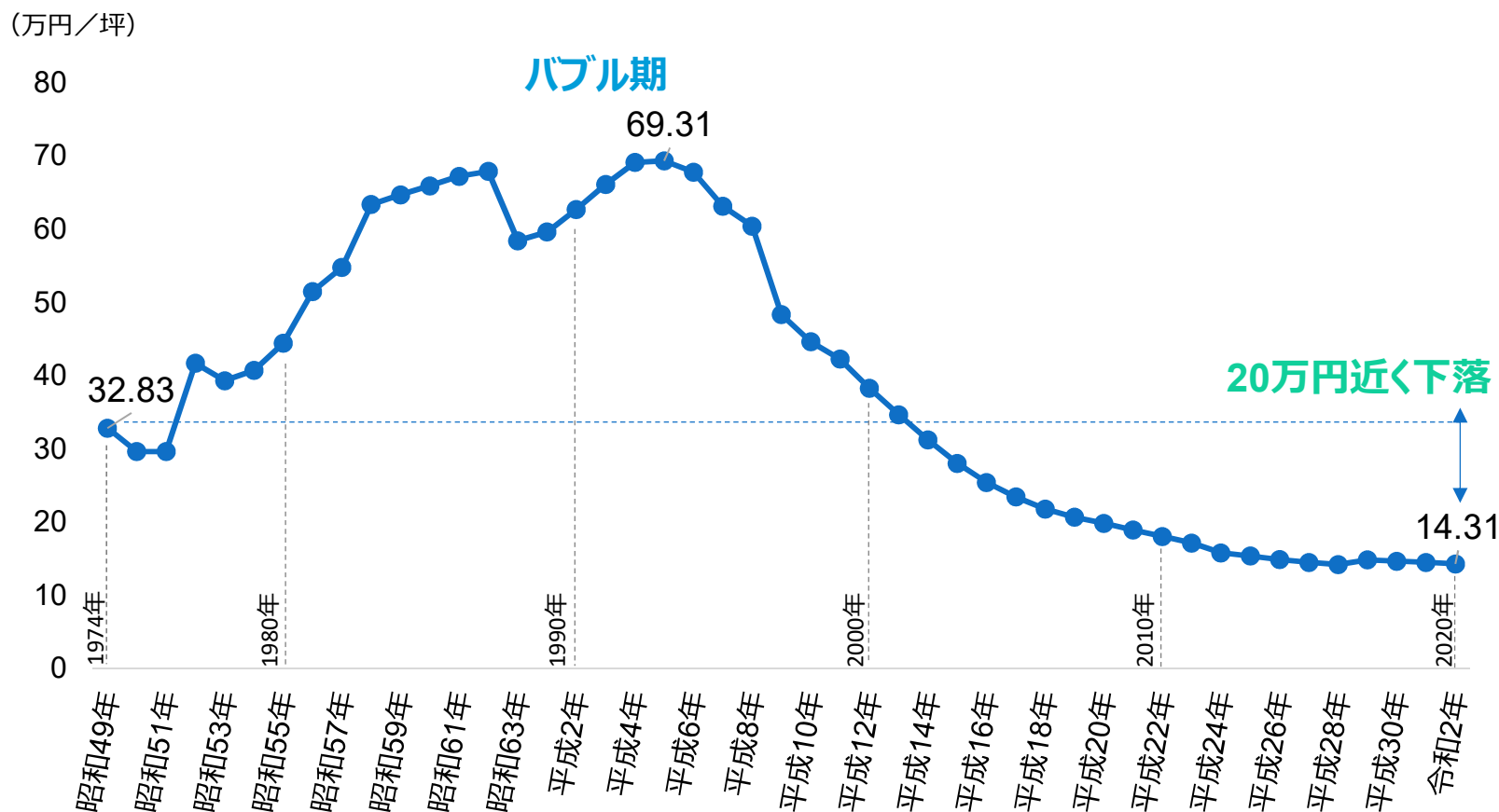
参考資料

# 3

## 経済・財政の現状と見通し

- ・市内公示地価平均坪単価（全用途）は、70万円近くまで上昇したが、その後下落
- ・1974年からは、20万円近く下落

■公示地価推移

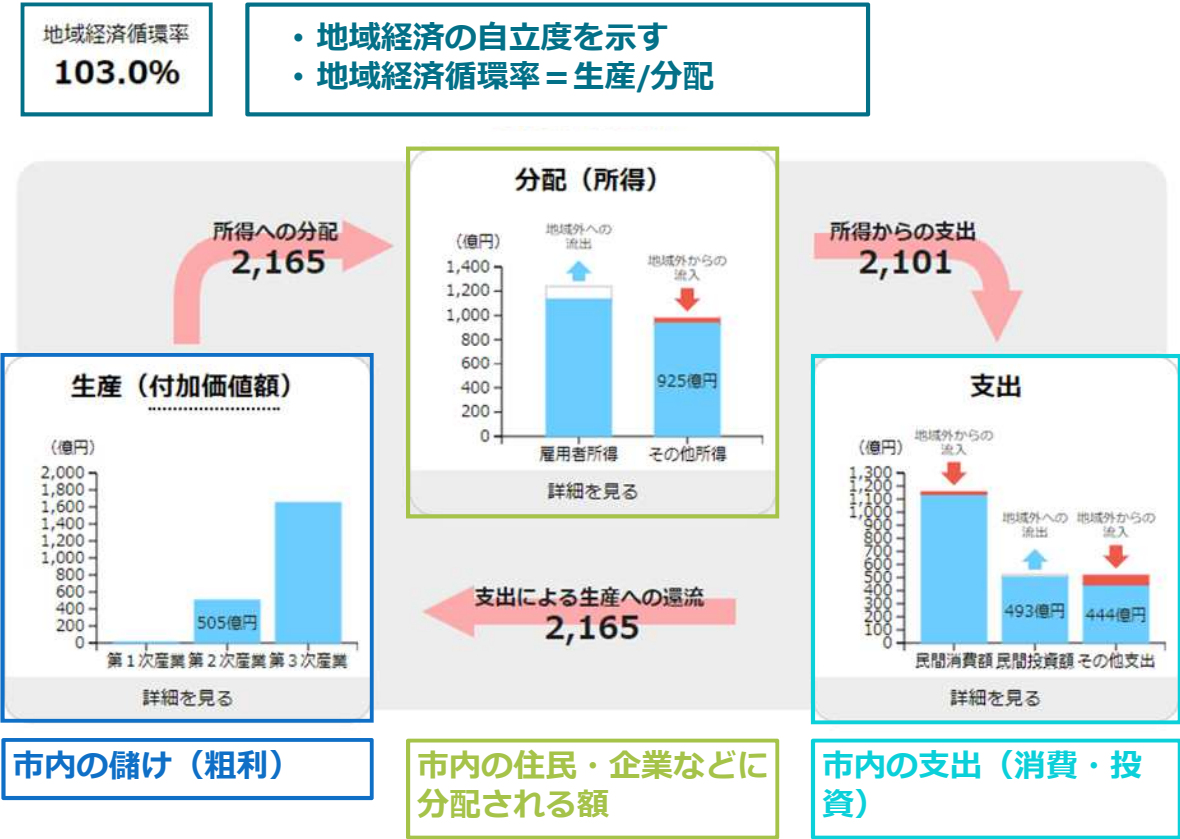


出典：国土交通省



- ・ 諏訪市は地域経済循環率が100%を超えている

■地域経済循環図（2018年）



所得（一人当たり）  
2018年

指定地域：長野県諏訪市

	雇業者所得	その他所得
所得 （一人当たり）	229万円	199万円
所得 （一人当たり） 順位	654位	1,146位

付加価値額（一人当たり）  
2018年

指定地域：長野県諏訪市

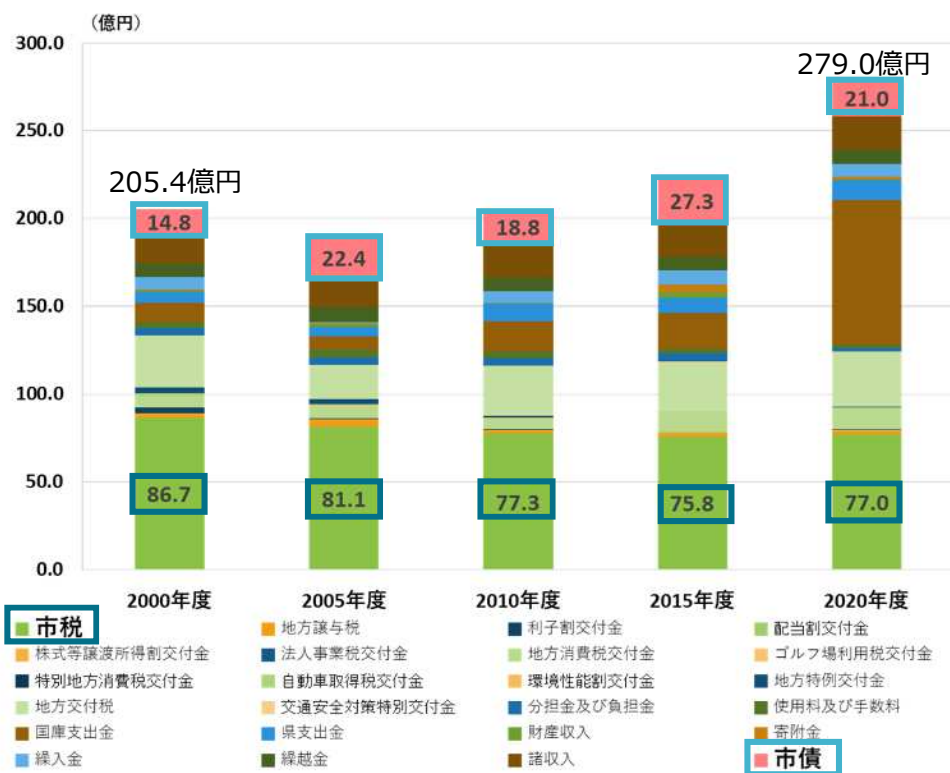
	第1次産業	第2次産業	第3次産業
付加価値額 （一人当たり）	189万円	653万円	910万円
付加価値額 （一人当たり） 順位	1,307位	1,244位	373位

出典：RESAS

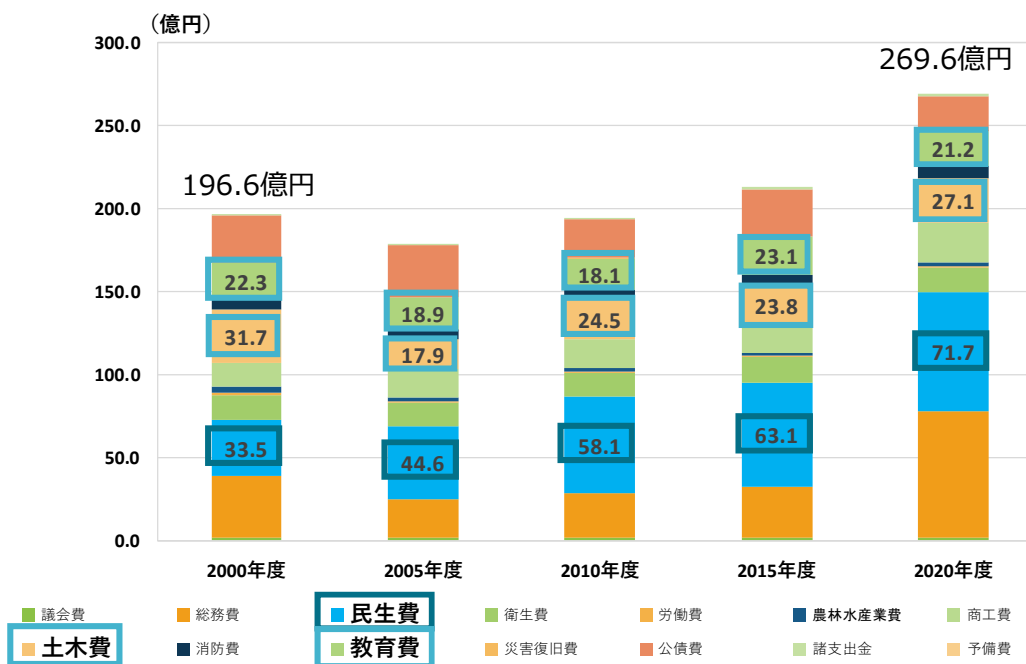
- 2000年以降の20年間で一般会計歳入合計は、約1.36倍（約205.4億円から約279.0億円に）に増加
- 一方で、市税収は約0.89倍に減少、市債は約1.42倍に増加し、市の財政状況は厳しさを増している

- 2000年以降の20年間で一般会計歳出合計は、約1.37倍（約196.6億円から約269.6億円に）に増加
- 総務費・民生費が2倍以上に増加し、土木費は0.85倍・教育費は0.95倍に減少

## ■一般会計歳入の推移



## ■一般会計歳出の推移



出典：諏訪市資料

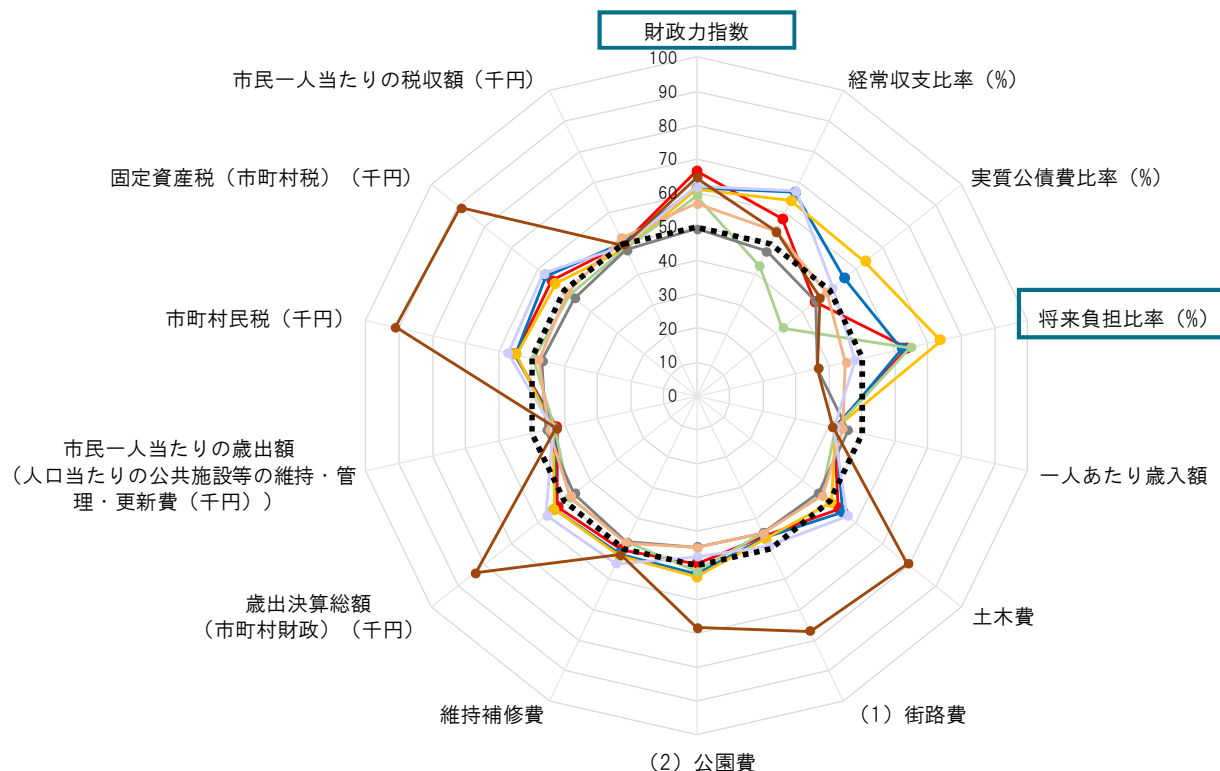
出典：諏訪市資料

- ・財政力指数（0.74：2020年度）が比較的高いが、1を割っている
- ・将来負担比率が近隣自治体の中では比較的高く、将来財政を圧迫する可能性が高い

## ■財政偏差比較（近隣自治体との比較）

※偏差値による比較

●諏訪市 ●茅野市 ●岡谷市 ●下諏訪町 ●原村 ●富士見町 ●塩尻市 ●松本市 ■■■長野県平均



## ■財政力指数



※**財政力指数**： 財政力指数が高いほど、普通交付税算定上の留保財源が大きいことになり、財源に余裕があるといえる

※**将来負担比率**： 地方公共団体の一般会計等の借入金（地方債）や将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高を指標化し、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示す指標

※**類似団体**： 人口及び産業構造等により全国の市町村を35グループに分類し、諏訪市と同じグループに属する市町村

出典：令和2年度財政状況資料集より作成，総務省HP「財政状況資料集の説明」

## 総括

項目	現状と見通し	概況
公示地価推移	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内公示地価平均坪単価（全用途）は、70万円近くまで上昇したが、その後下落</li> <li>1974年からは、20万円近く下落</li> </ul>	人口減少・高齢化が進む中で、地価の下落、市税収の減少、民生費支出の増大など、市の経済・財政は厳しくなっている
地域経済循環図（2018年）	<ul style="list-style-type: none"> <li>諏訪市は地域経済循環率が100%を超えている</li> </ul>	
一般会計歳入の推移	<ul style="list-style-type: none"> <li>2000年以降の20年間で一般会計歳入合計は、約1.36倍（約205.4億円から約279.0億円）に増加</li> <li>一方で、市税収は約0.89倍に減少、市債は約1.42倍に増加し、市の財政状況は厳しさを増している</li> </ul>	
一般会計歳出の推移	<ul style="list-style-type: none"> <li>2000年以降の20年間で一般会計歳出合計は、約1.37倍（約196.6億円から約269.6億円）に増加</li> <li>総務費・民生費が2倍以上に増加し、土木費は0.85倍・教育費は0.95倍に減少</li> </ul>	
財政偏差比較 （近隣自治体との比較）	<ul style="list-style-type: none"> <li>財政力指数（0.74：2020年度）が比較的高いが、1を割っている</li> <li>将来負担比率が近隣自治体の中では比較的高く、将来財政を圧迫する可能性が高い</li> </ul>	

参考資料

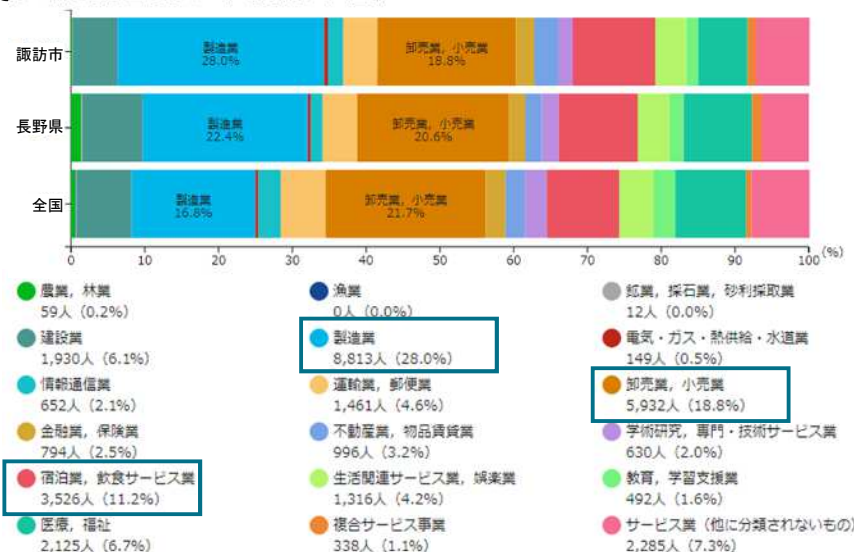
# 4

## 産業の現状と見通し

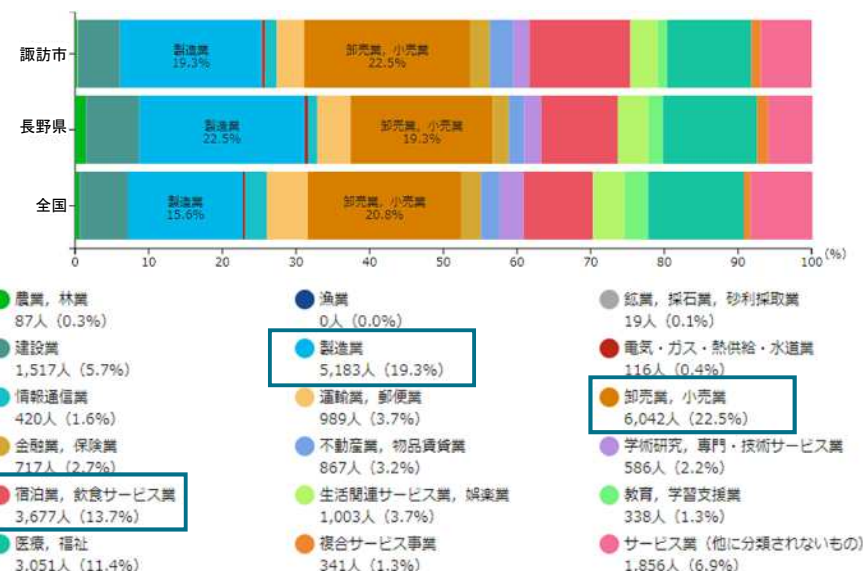


- ・2016年の上位3産業の従業者数は、2009年から約18%減少
- ・特に製造業従業者数が41%減少し、全産業に占める従業者数割合が卸売・小売業と逆転

### ■産業構造（従業者数：事業所単位）



2009年



2016年

産業	2009年	2016年	増減数	増減率
製造業	8,813人	5,183人	-3,630人	-41%
卸売・小売業	5,932人	6,042人	+110人	+2%
宿泊・飲食業	3,526人	3,677人	+151人	+4%
上位3産業合計	18,271人	14,902人	-3,369人	-18%

出典：RESAS

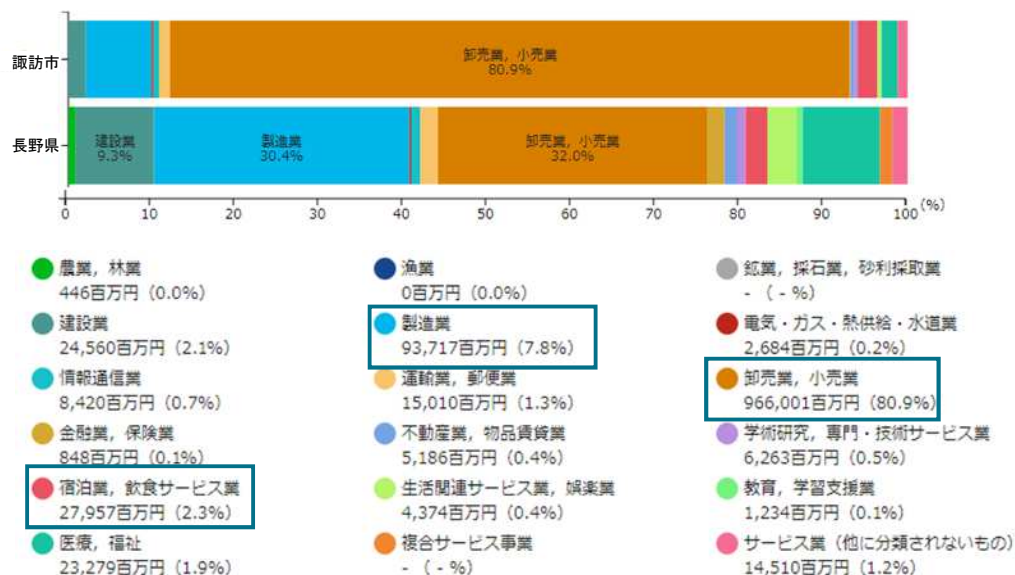
- ・諏訪市の産業の約80%以上は卸売・小売業だが、その内の多くは機械器具卸売業であり、ものづくり/製造産業に特性が見られる

## ■産業構造（売上高：企業単位）

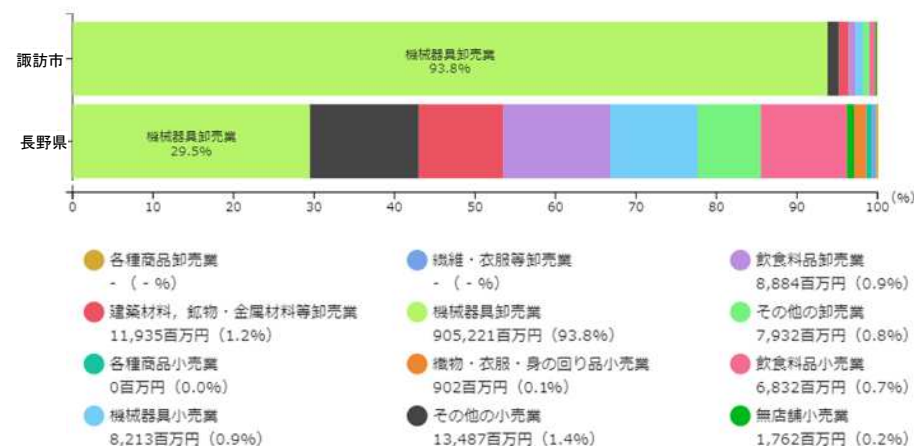
### 上位3産業の合計：約1.09兆円

#### 売上高(企業単位) 2016年

指定地域：長野県諏訪市



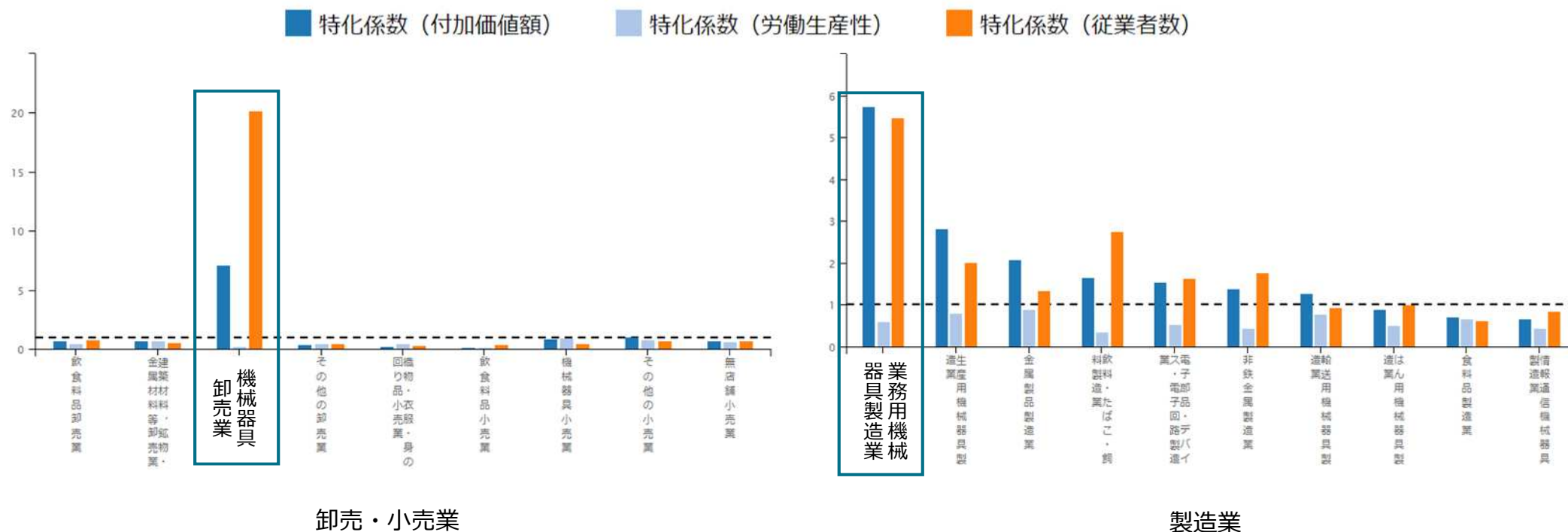
#### 卸売業、小売業



出典：RESAS

- ・卸売・小売業では、機械器具卸売業、製造業では業務用機械器具製造業、生産用機械器具製造業、金属製品製造業などの値が高いことから、ものづくり産業が市の特性

### ■産業別特化係数（2016年）卸売・小売業、製造業

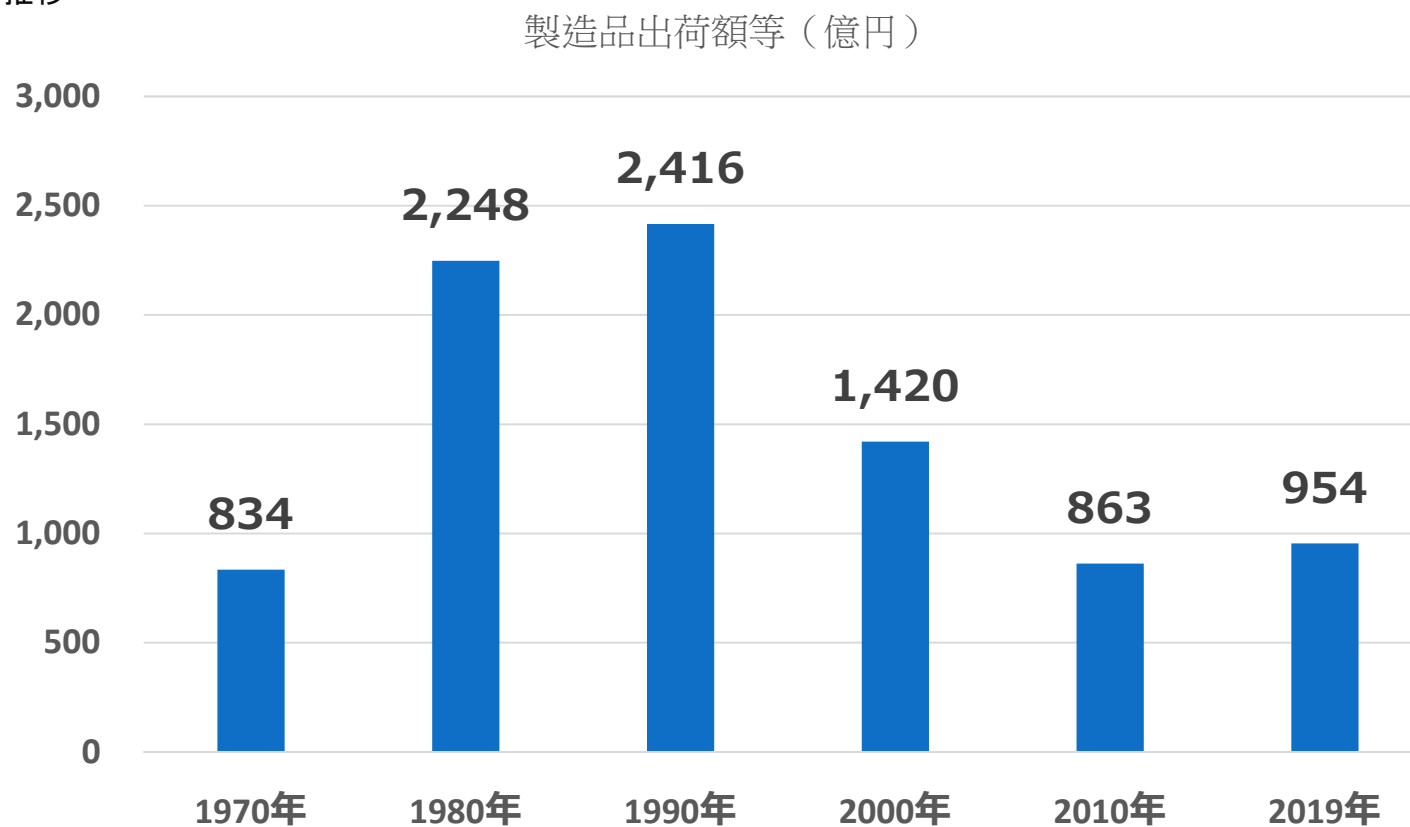


※特化係数：域内のある産業の比率を全国と同産業の比率と比較したもの。1.0を超えていれば、当該産業が全国に比べて特化している産業とされる。

出典：RESAS

- ・ 製造品など出荷額は、1990年（2,416億円）と比較すると、2019年には約 4 割（954億円）に減少

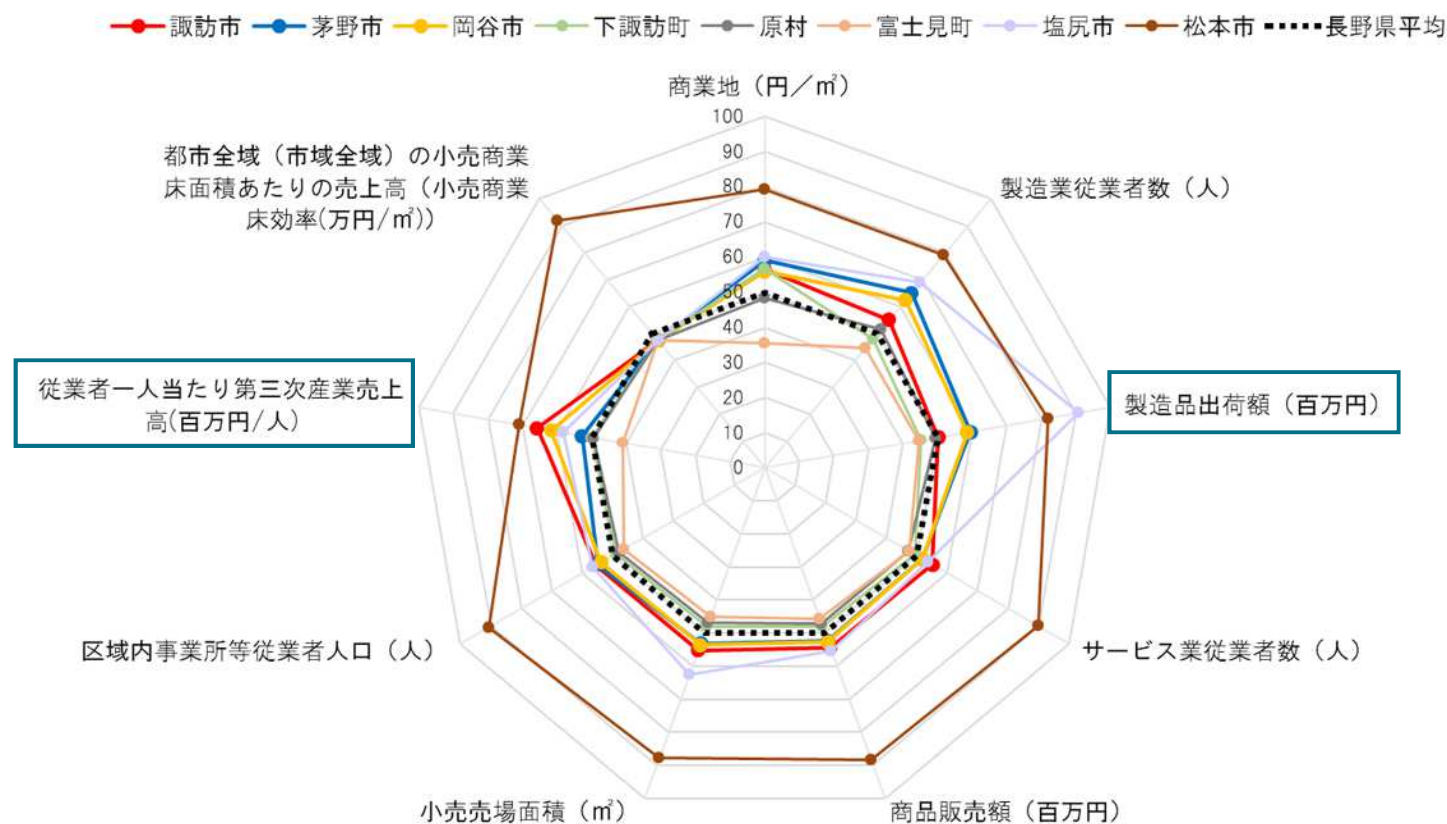
#### ■ 製造品出荷額などの推移



出典：諏訪地方統計要覧

- 従業者一人当たり三次産業売上は、松本市に次ぐ 2 位
- 製造品出荷額は、ほぼ長野県平均であり、近隣自治体の中で 5 位

### ■産業偏差比較（近隣自治体との比較）



※偏差値による比較

出典：H28経済センサス-活動調査より作成



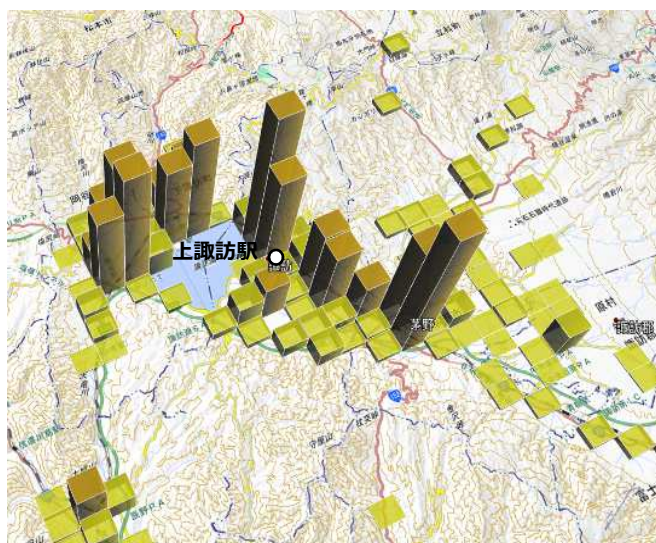
- 南信地区の商圈構造 《全品目平均》（2019）



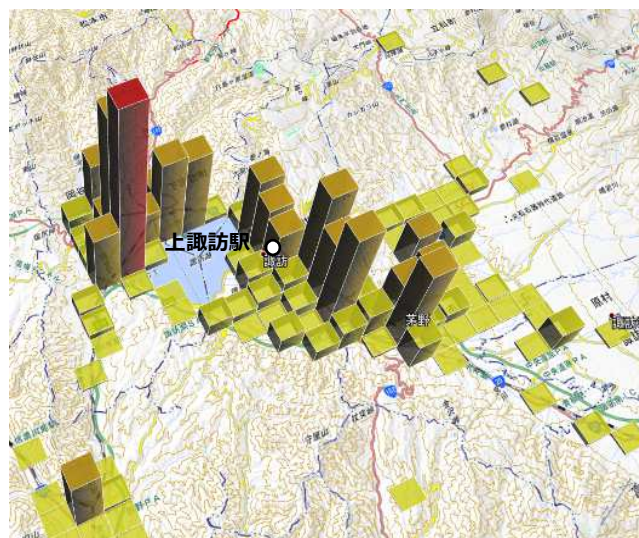
30

- ・諏訪地域全体として、小売年間販売額は減少傾向
- ・以前（約30年前）は、上諏訪駅周辺の小売販売額が大きかったが、近年は国道20号沿いの茅野市方面へと売上が分散

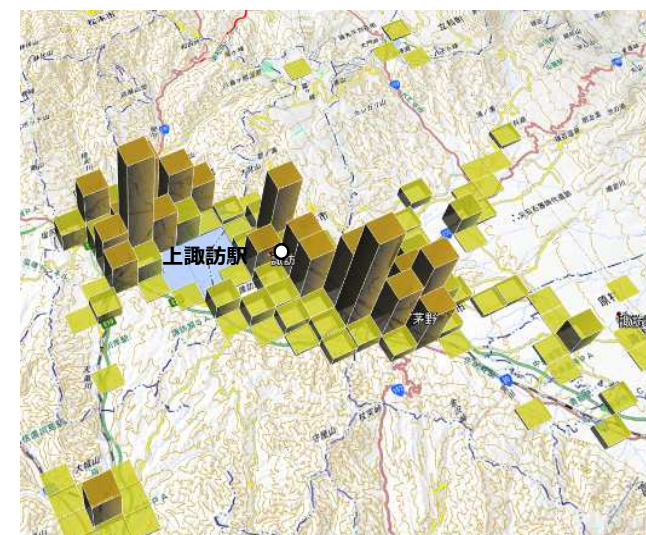
### ■年間小売販売額の推移



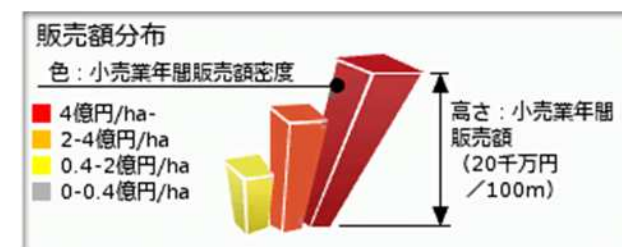
1991年



1999年



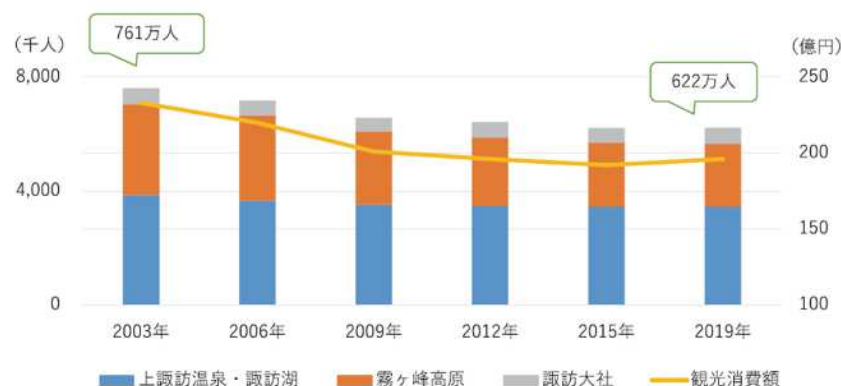
2007年



出典：都市構造可視化サイト（データ：商業統計調査）

- ・市内観光客数は減少傾向だが、外国人宿泊客数は増加傾向
- ・観光客のうち宿泊客は10%程度、8月が繁忙期

■観光客入込数・観光消費額の推移



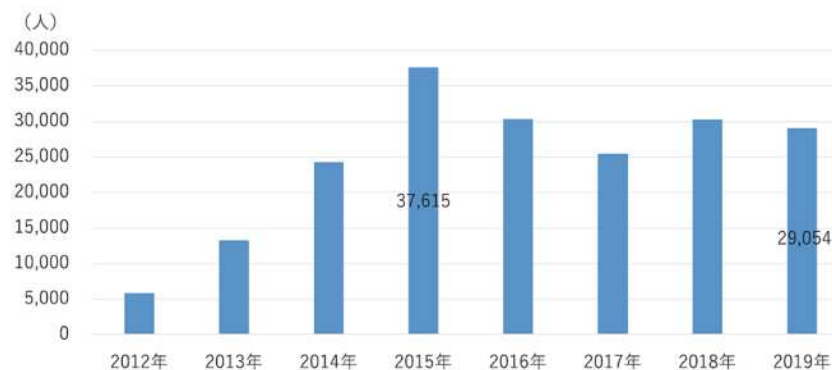
■観光客入込数（日帰り・宿泊）の推移



■令和元年度上諏訪温泉宿泊客数



■諏訪市外国人宿泊客数の推移

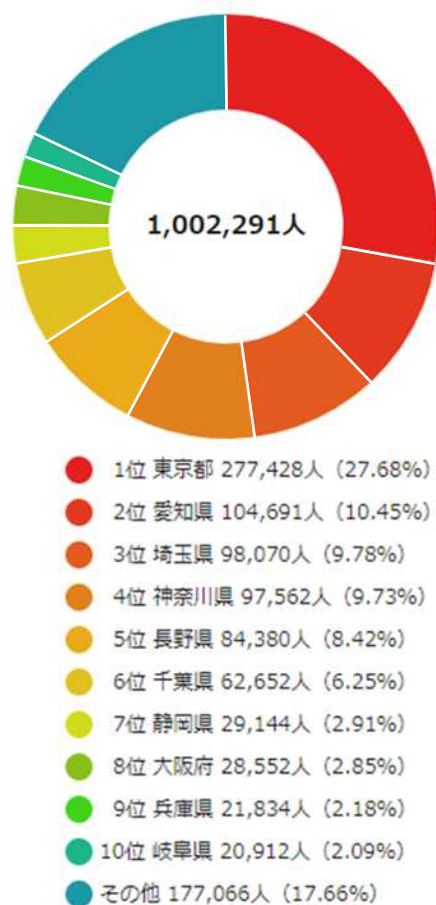


出典：諏訪市観光グランドデザイン, 資料：諏訪市観光動態要覧, 諏訪地方観光連盟インバウンド実績

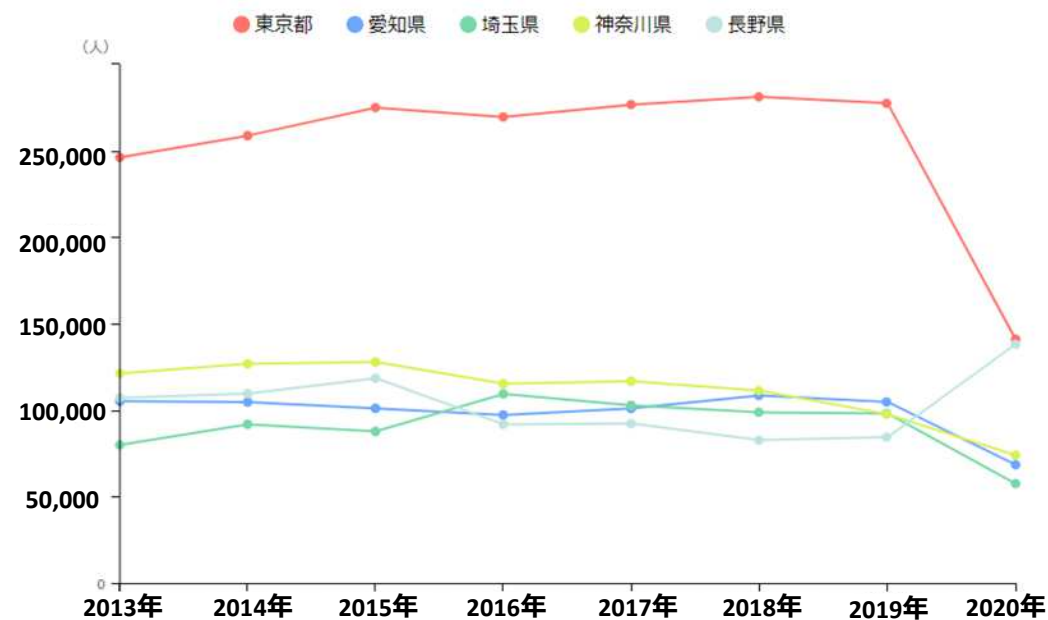


- ・南関東（東京・埼玉・神奈川・千葉）、東海、長野県からの宿泊者が多く、広範囲からの集客が可能

■居住都道府県別延べ宿泊者数  
（日本人）の構成割合(2019)



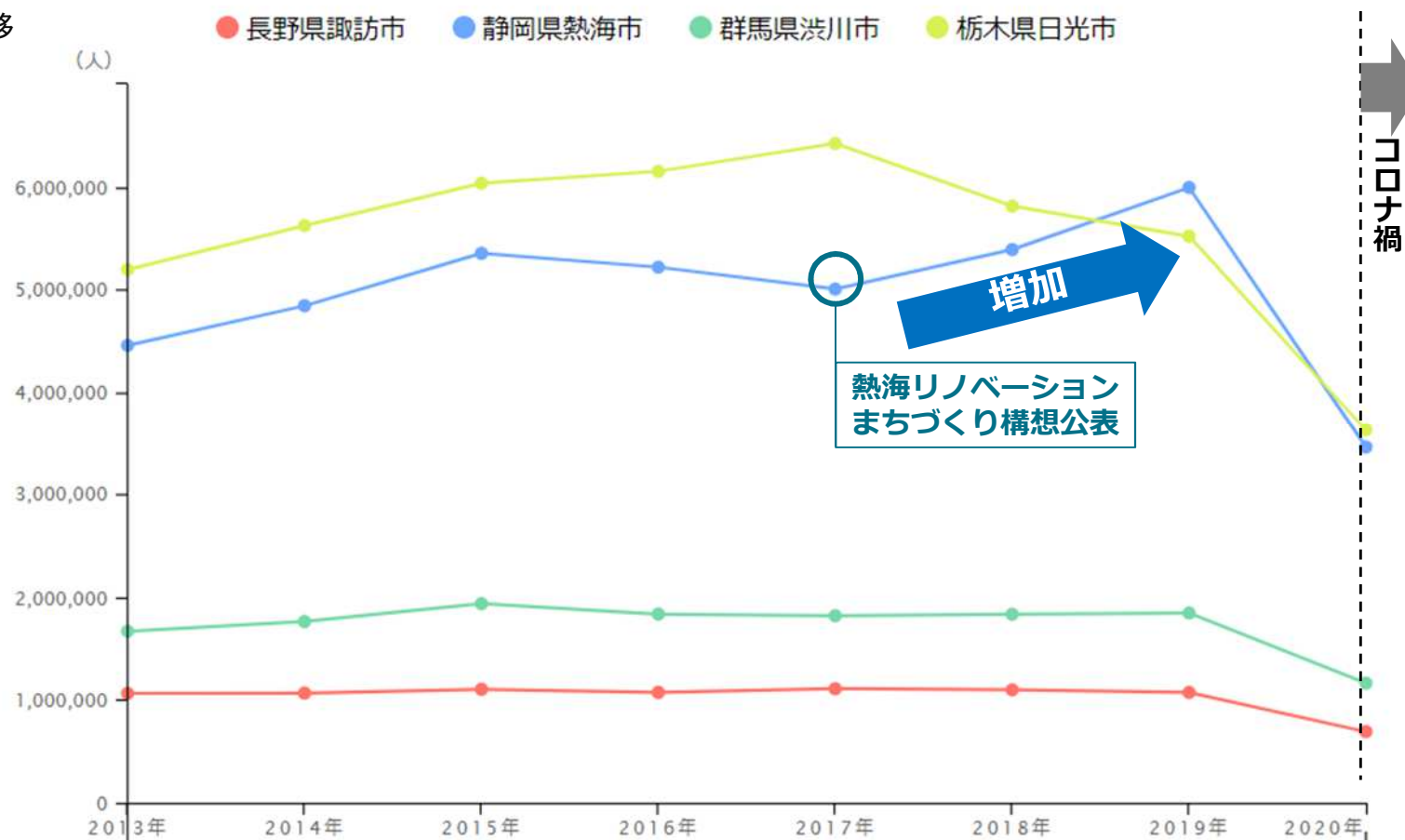
■居住都道府県別延べ宿泊者数（日本人）の推移



出典：RESAS

- 熱海市のみ2018・2019年に宿泊客数が増加
- 諏訪市・渋川市・日光市の2018・2019年の宿泊客数は、減少もしくは横ばい

## ■他都市宿泊客数の推移



出典：RESAS



## 総括

項目	現状と見通し	概況
産業構造（従業者数）	<ul style="list-style-type: none"><li>2016年の上位3産業の従業者数は、2009年から約18%減少</li><li>特に製造業従業者数が41%減少し、全産業に占める従業者数割合が卸売・小売業と逆転</li></ul>	ものづくりが市の特性だが、製造業の勢いは減少
産業構造（売上高）	<ul style="list-style-type: none"><li>諏訪市の産業の約80%以上は卸売・小売業だが、その内の多くは機械器具卸売業であり、ものづくり/製造産業に特性が見られる</li></ul>	
産業別特化係数（2016年）卸売・小売業、製造業	<ul style="list-style-type: none"><li>卸売・小売業では、機械器具卸売業、製造業では業務用機械器具製造業、生産用機械器具製造業、金属製品製造業などの値が高いことから、ものづくり産業が市の特性</li></ul>	
製造品出荷額などの推移	<ul style="list-style-type: none"><li>製造品など出荷額は、1990年（2,416億円）と比較すると、2019年には約4割（954億円）に減少</li></ul>	商業は、周辺の自治体を商圈に含んでいるが、駅周辺の売上が減少
産業偏差比較（近隣自治体との比較）	<ul style="list-style-type: none"><li>従業者一人当たり三次産業売上は、松本市に次ぐ2位</li><li>製造品出荷額は、ほぼ長野県平均であり、近隣自治体の中で5位</li></ul>	
南信地区の商圈構造 《全品目平均》（2019）	<ul style="list-style-type: none"><li>諏訪市の商圈は、岡谷市、茅野市、下諏訪町など諏訪地域に広く、小売吸引力が高い</li></ul>	
年間小売販売額の推移	<ul style="list-style-type: none"><li>諏訪地域全体として、小売年間販売額は減少傾向</li><li>以前（約30年前）は、上諏訪駅周辺の小売販売額が大きかったが、近年は国道20号沿いの茅野市方面へと売上が分散</li></ul>	観光客数は減少傾向。関東・中部・県内からの観光客・日帰り客が多い
観光客入込数・観光消費額の推移	<ul style="list-style-type: none"><li>市内観光客数は減少傾向だが、外国人宿泊客数は増加傾向</li><li>観光客のうち宿泊客は10%程度、8月が繁忙期</li></ul>	
観光客入込数（日帰り・宿泊）の推移		
令和元年度上諏訪温泉宿泊客数		
諏訪市外国人宿泊客数の推移		
居住都道府県別延べ宿泊者数の構成割合(2019)	<ul style="list-style-type: none"><li>南関東（東京・埼玉・神奈川・千葉）、東海、長野県からの宿泊者が多く、広範囲からの集客が可能</li></ul>	
居住都道府県別延べ宿泊者数の推移	<ul style="list-style-type: none"><li>熱海市のみ2018・2019年に宿泊客数が増加</li><li>諏訪市・渋川市・日光市の2018・2019年の宿泊客数は、減少もしくは横ばい</li></ul>	
他都市宿泊客数の推移		

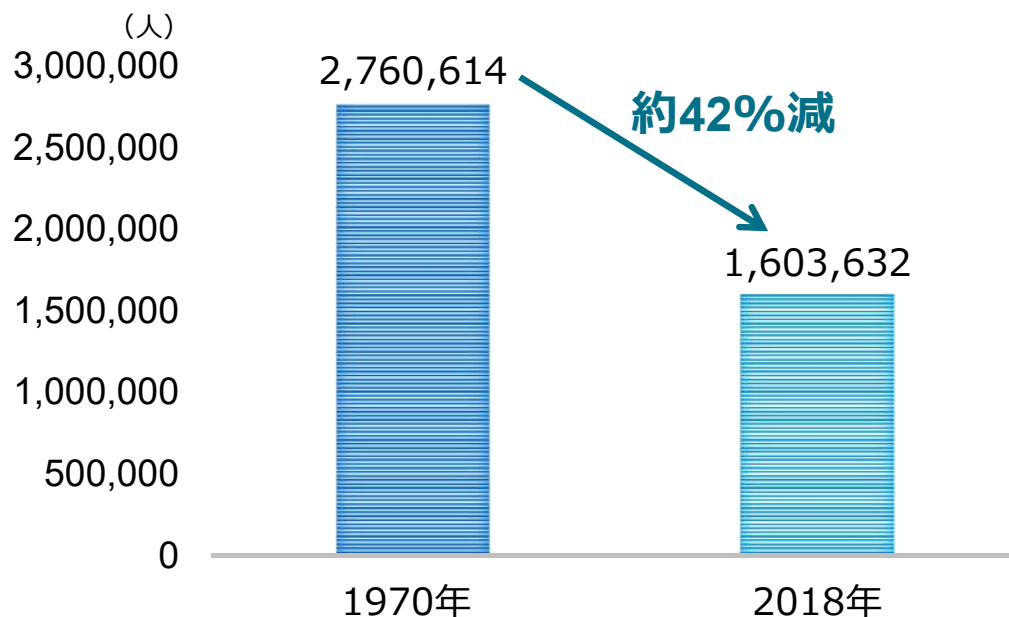
参考資料

# 5

## 暮らしの現状と見通し

- 1970年から2018年にかけて乗客数は約42%の減少。一日当たりで換算すると約3,000人減少

■JR上諏訪駅 乗客数



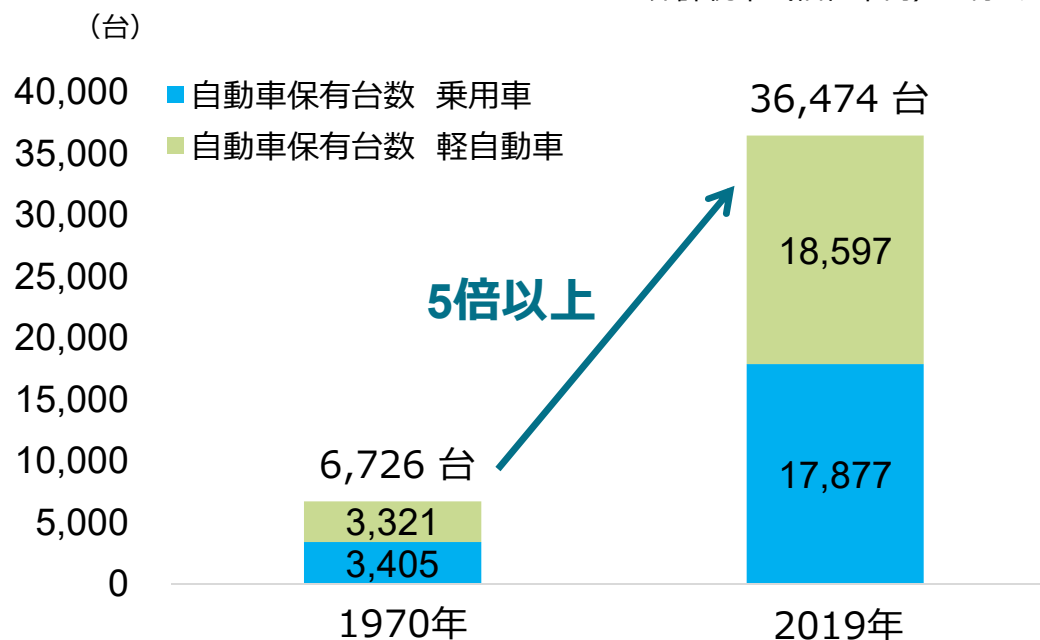
	1970年	2018年
1日当たり	7,563 人/日	4,394 人/日

出典：JR東日本HP

- 1970年から2019年にかけて自動車保有数は約5.5倍、一人当たりの自動車保有率も5倍以上に増加

■自動車保有台数

※乗用車には商用車を含む  
非課税車（福祉車両）は除く

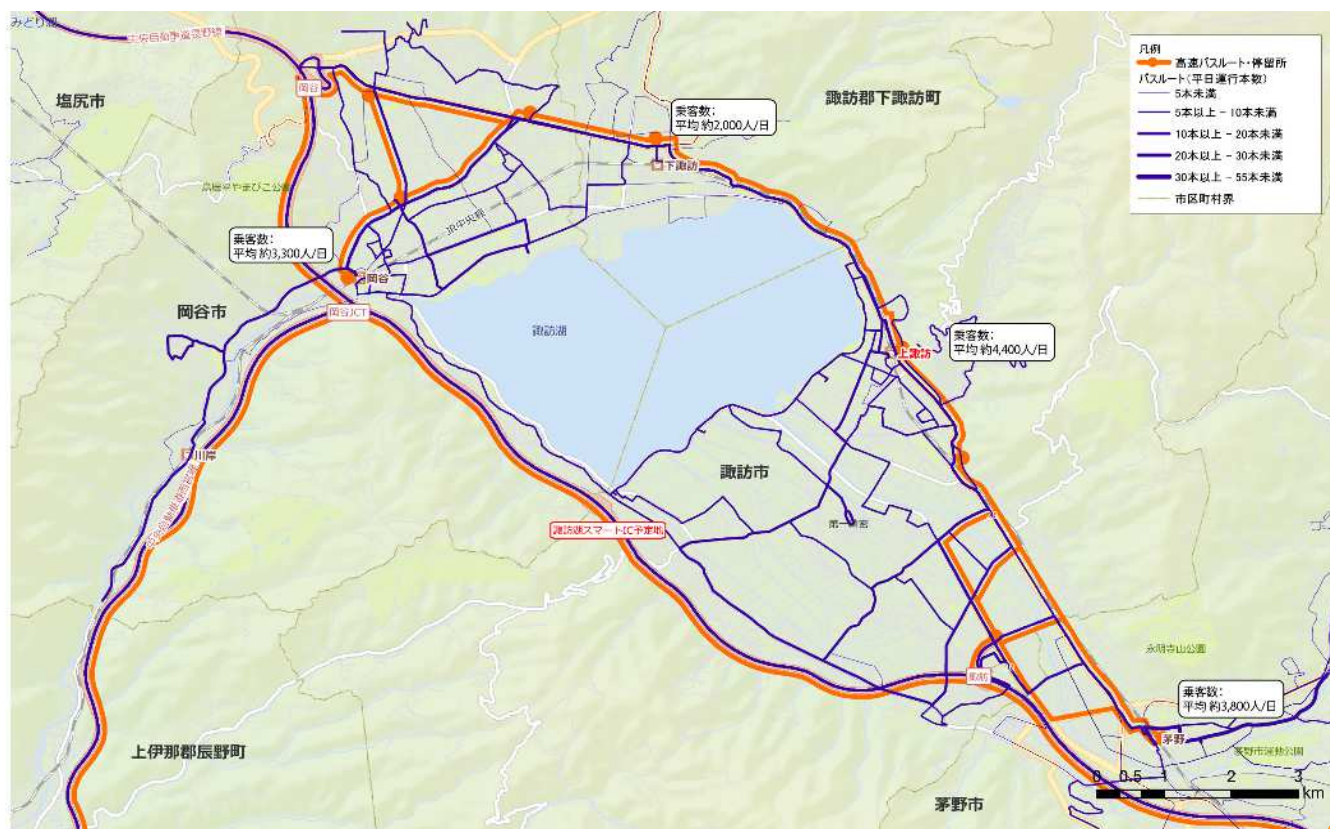


自動車保有率	1970年	2019年
一人当たり	0.14 台/人	0.74 台/人

出典：S45諏訪地方統計要覧、R1諏訪地方統計要覧

- ・近隣駅の中では、駅乗客数が最も多い
- ・多くの路線バスの平日運行本数が10本/日未満
- ・東京方面と関西方面との間を長距離バスが結ぶ

### ■交通状況図



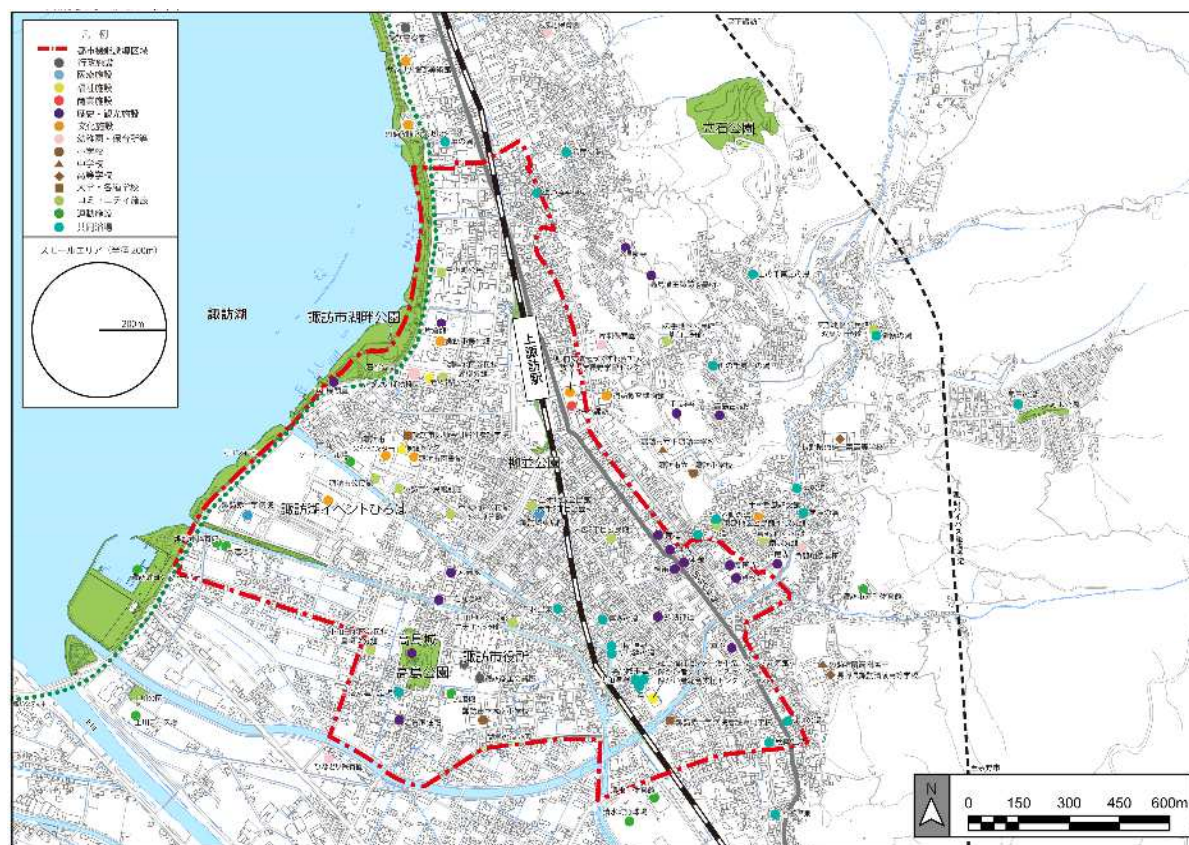
（茅野駅）～上諏訪駅～岡谷駅～岡谷IC～京都・大阪

岡谷駅～上諏訪駅～（茅野駅）～諏訪IC～新宿（1時間に1本程度）

出典：国土数値情報を基に作成

- 都市機能は、上諏訪駅を中心とした半径1km圏内程度を中心に散在

## ■都市機能（施設配置）

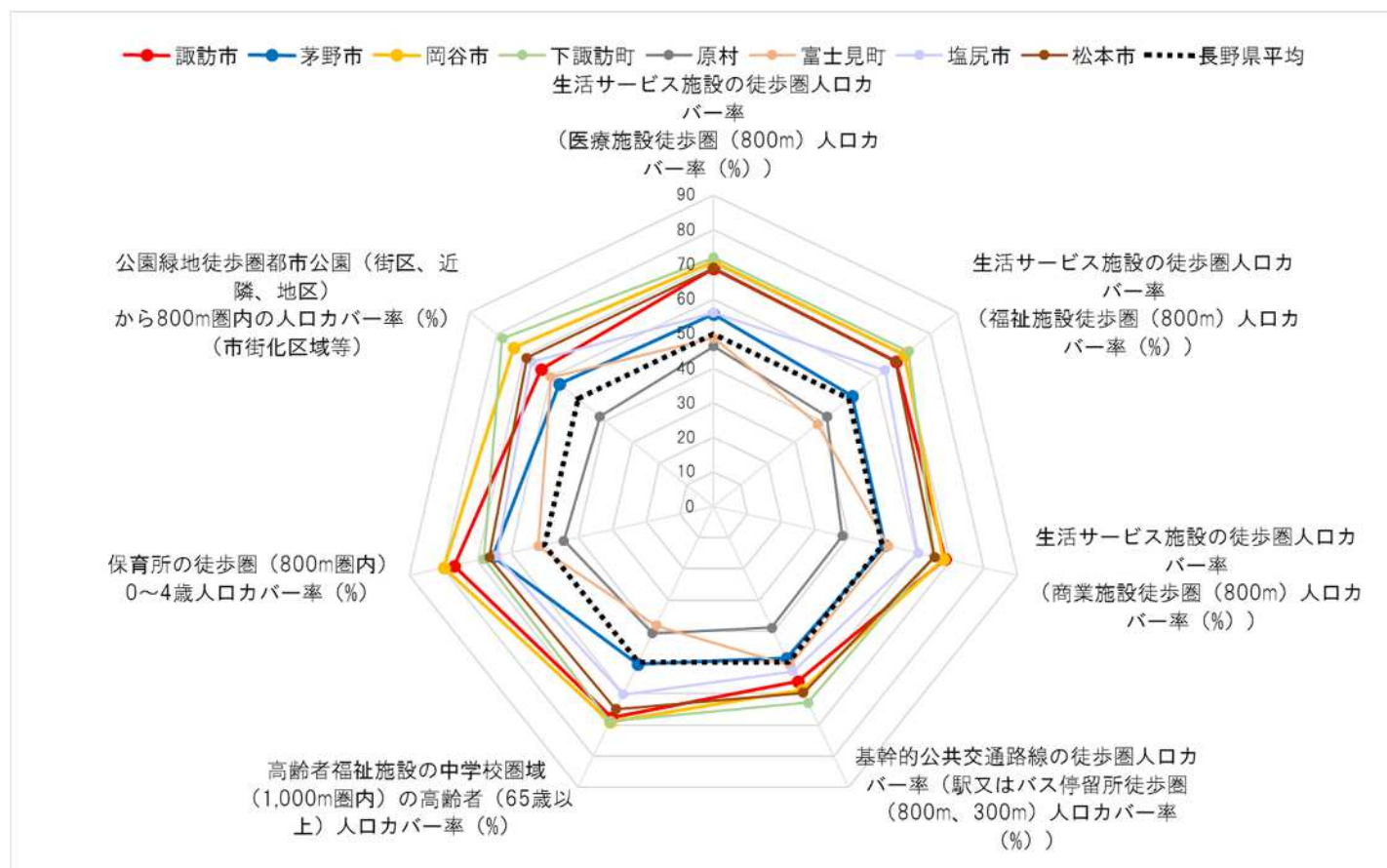


施設配置



- 各種施設への徒歩圏カバー率は、長野県平均を上回っており、かつ比較的上位にあることから、生活利便性が高い

### ■徒歩圏カバー率

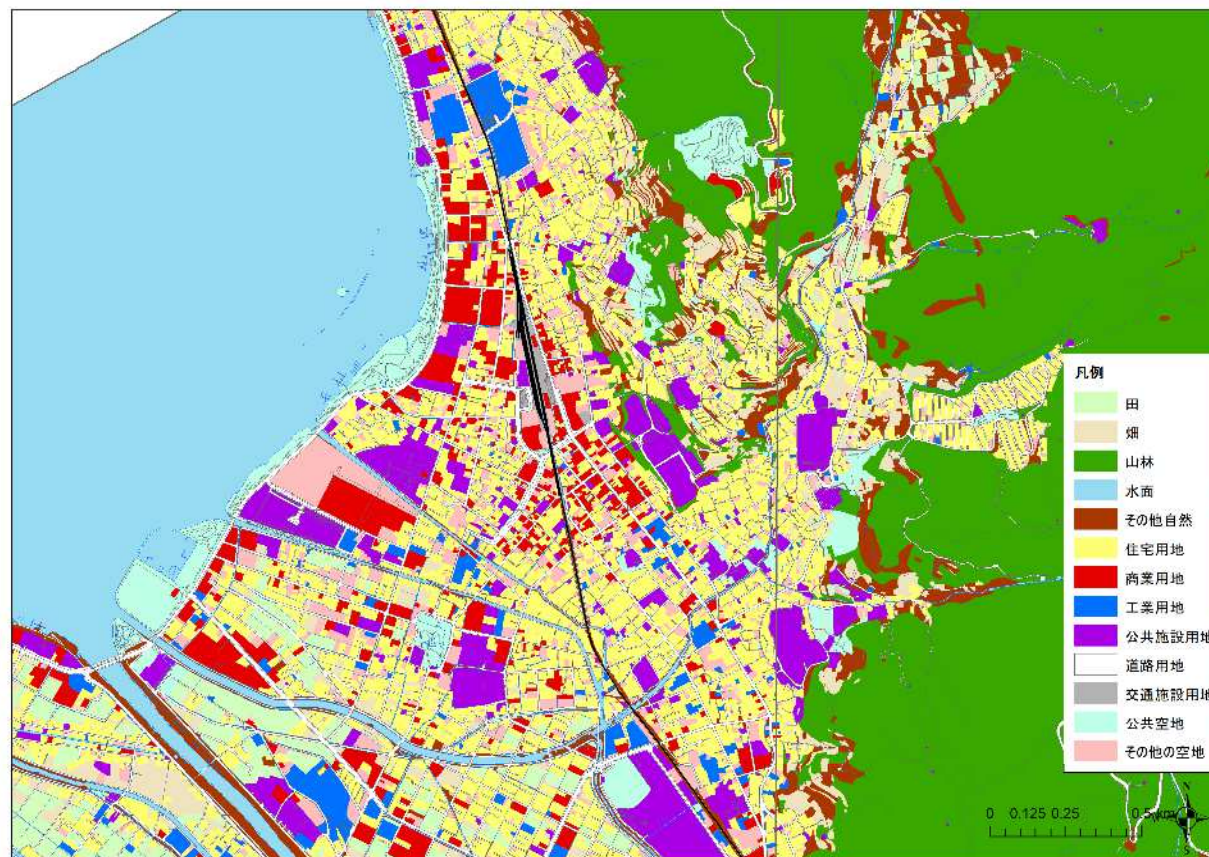


※偏差値による比較

出典：都市モニタリングシート  
資料：e-Stat「都道府県・市区町村のすがた（社会・人口統計体系）」、その他の各種集計表データ（要データ編集）

- ・駅周辺は、住宅・商業用地・公共施設用地が多いが空地も散在

## ■土地利用状況



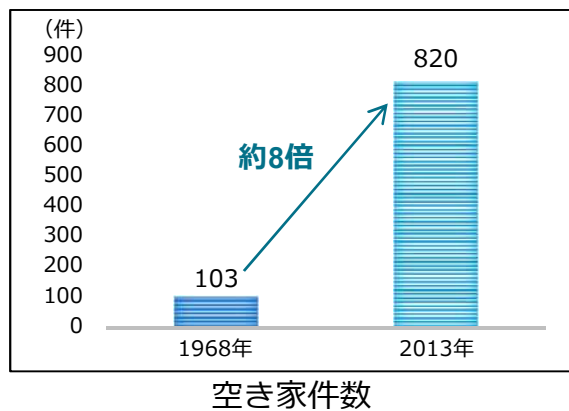
土地利用状況

出典：都市計画基礎調査を基に作成

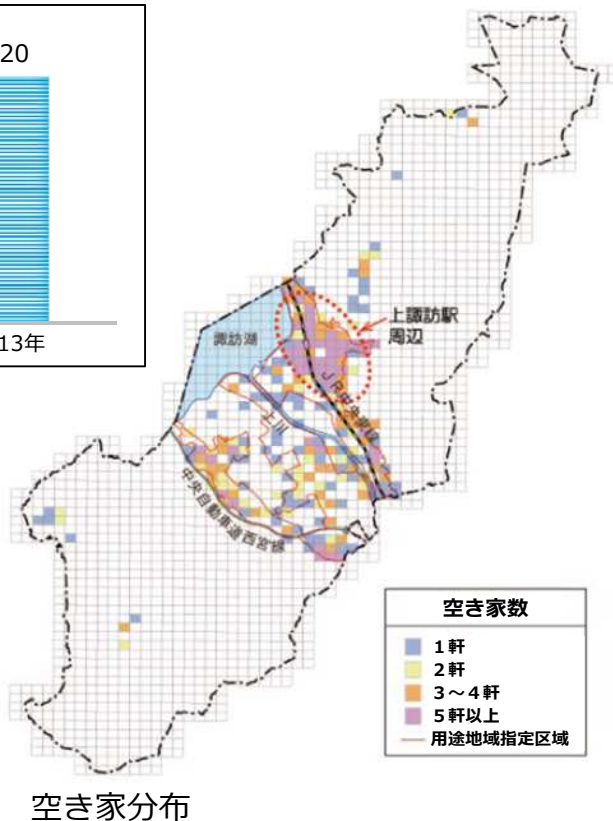


- 空き家は、特に上諏訪駅周辺に集中しており、250mメッシュ内に5軒以上存在している箇所が多く、空き家密度が高い
- 空き地・低未利用地についても、駅周辺に多く点在しており、中心部の人口流出やそれに伴う市街地の空洞化が進み、地域コミュニティの維持や防犯、景観などに問題が生じるおそれがある
- 1968年～2013年で、市内の空き家は8倍近く増加

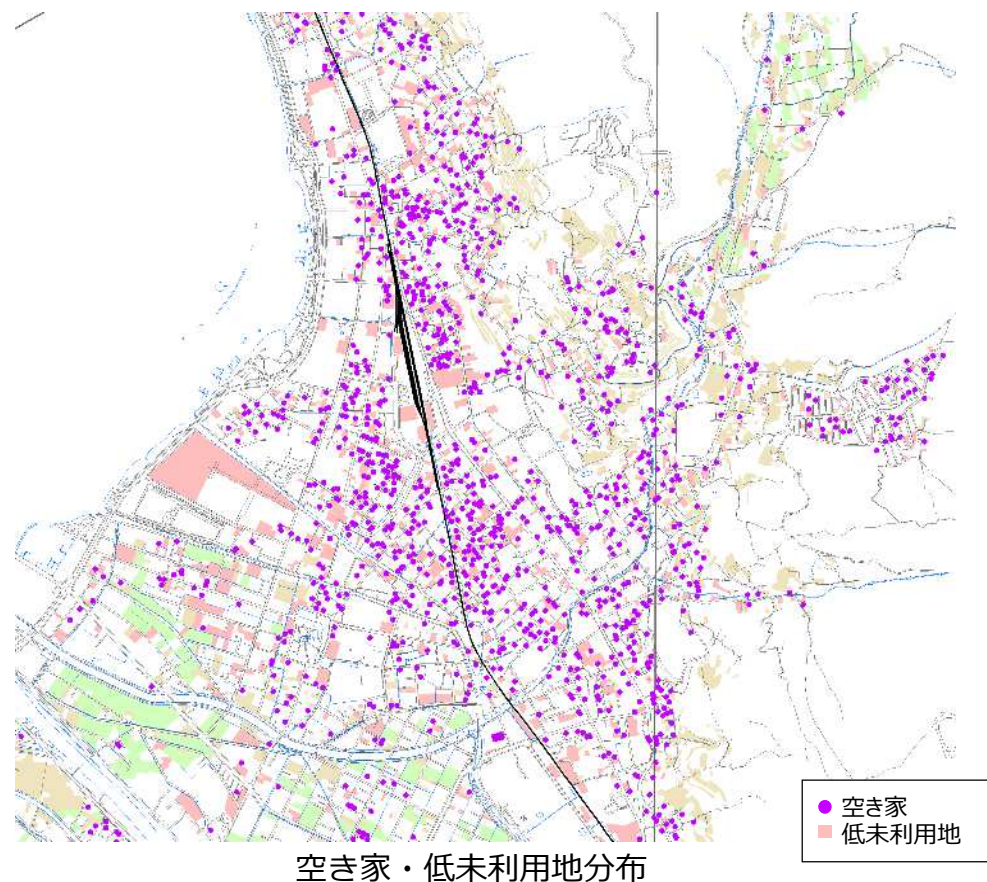
### ■空き家・低未利用地分布



出典：諏訪市空き家等対策計画



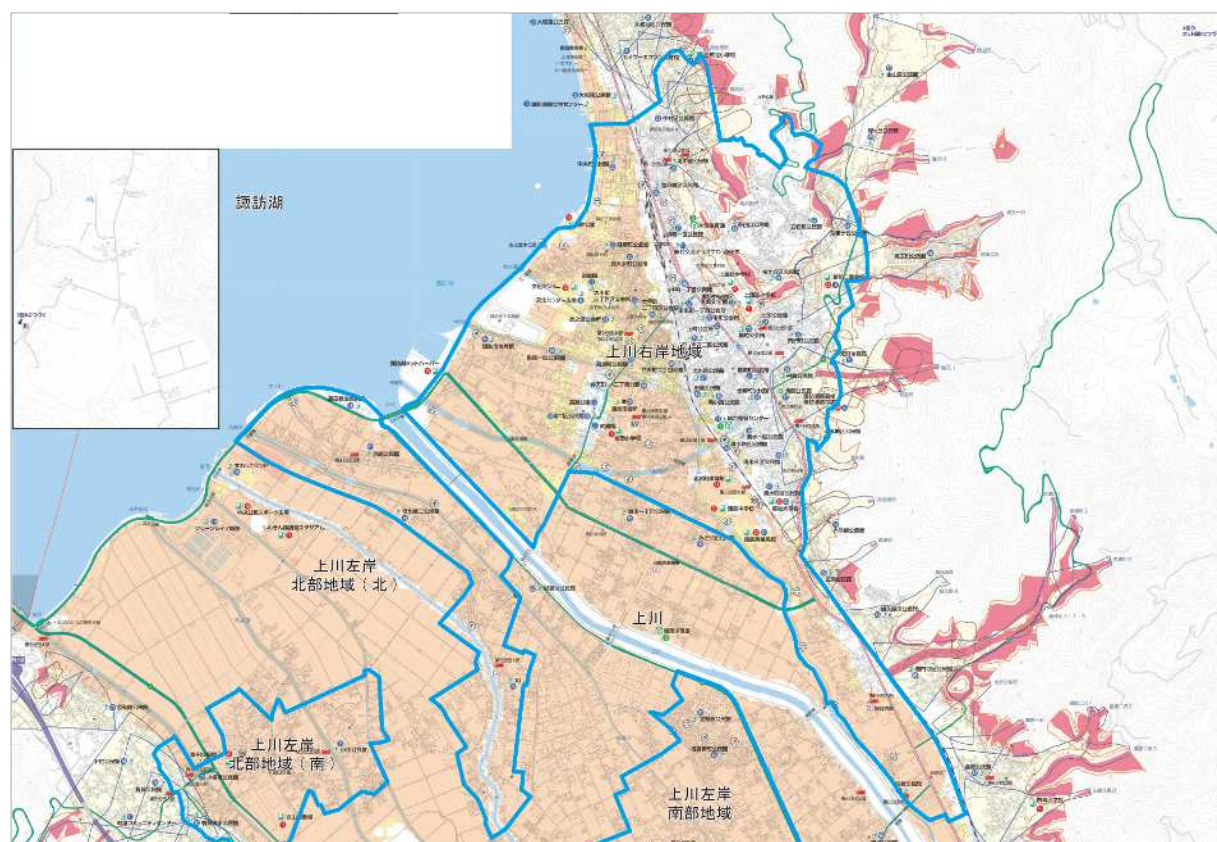
出典：諏訪市立地適正化計画



出典：空き地：都市計画基礎調査、空き家：市提供データを基に作成

- ・ 駅周辺の居住誘導区域の多くのエリアが浸水深3.0m未満の浸水想定区域に入っている

### ■浸水（100年に1度の確率）



#### ※居住誘導区域

- ・ 人口減少の中にあっても一定エリアにおいて人口密度を維持することにより、生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるよう、居住を誘導すべき区域
- 出典：諏訪市立地適正化計画

出典：諏訪市マルチハザードマップ2022、諏訪市立地適正化計画をもとに作成

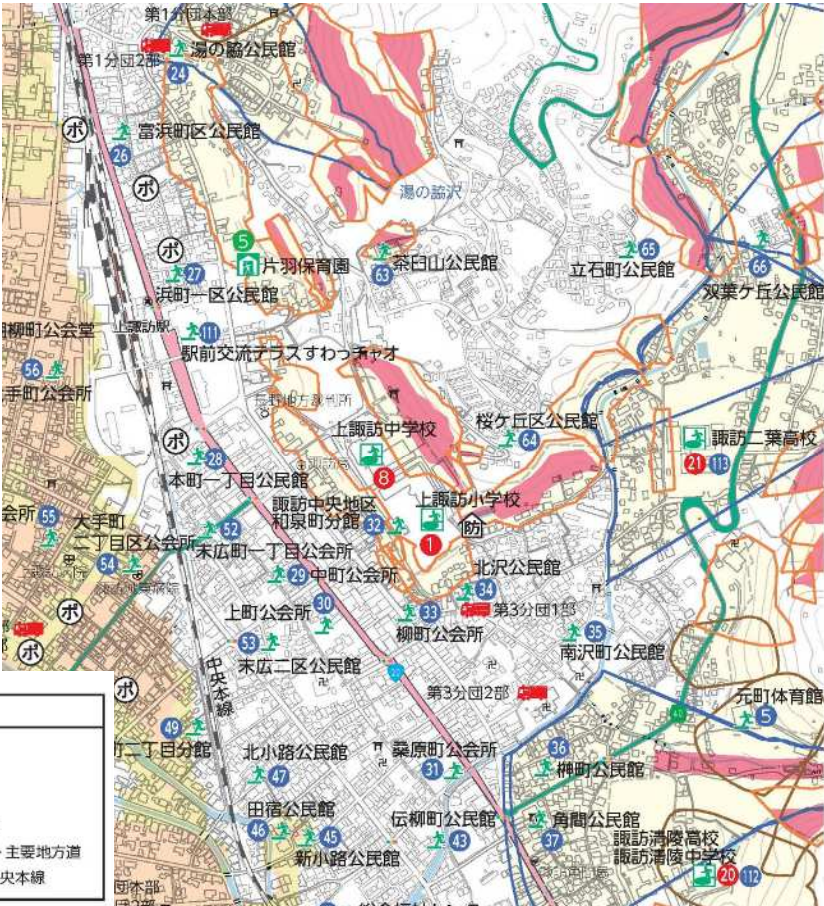


- ・ 駅東側（上諏訪小中学校周辺など）には、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域が複数指定されている

## ■土砂災害

土砂災害 凡例	
	土砂災害特別警戒区域
	土砂災害警戒区域(土石流)
	土砂災害警戒区域(急傾斜)
	土砂災害警戒区域(地すべり)

凡例 地図記号	
	広域避難所
	一次避難所
	福祉避難所
	防災倉庫
	水防倉庫
	消防団屯所
	水位観測所
	内水排除ポンプ
	市役所
	官公庁
	警察署・駐在所
	消防署
	郵便局
	国道
	県道・主要地方道
	JR 中央本線



**※土砂災害特別警戒区域**

- ・ 避難に配慮を要する方々が利用する要配慮者利用施設等が新たに土砂災害の危険性の高い区域に立地することを未然に防止するため、開発段階から規制していく必要性が特に高いものに対象を限定し、特定の開発行為を許可制とするなどの制限や建築物の構造規制等を行う区域

出典：国土交通省資料

**※土砂災害警戒区域**

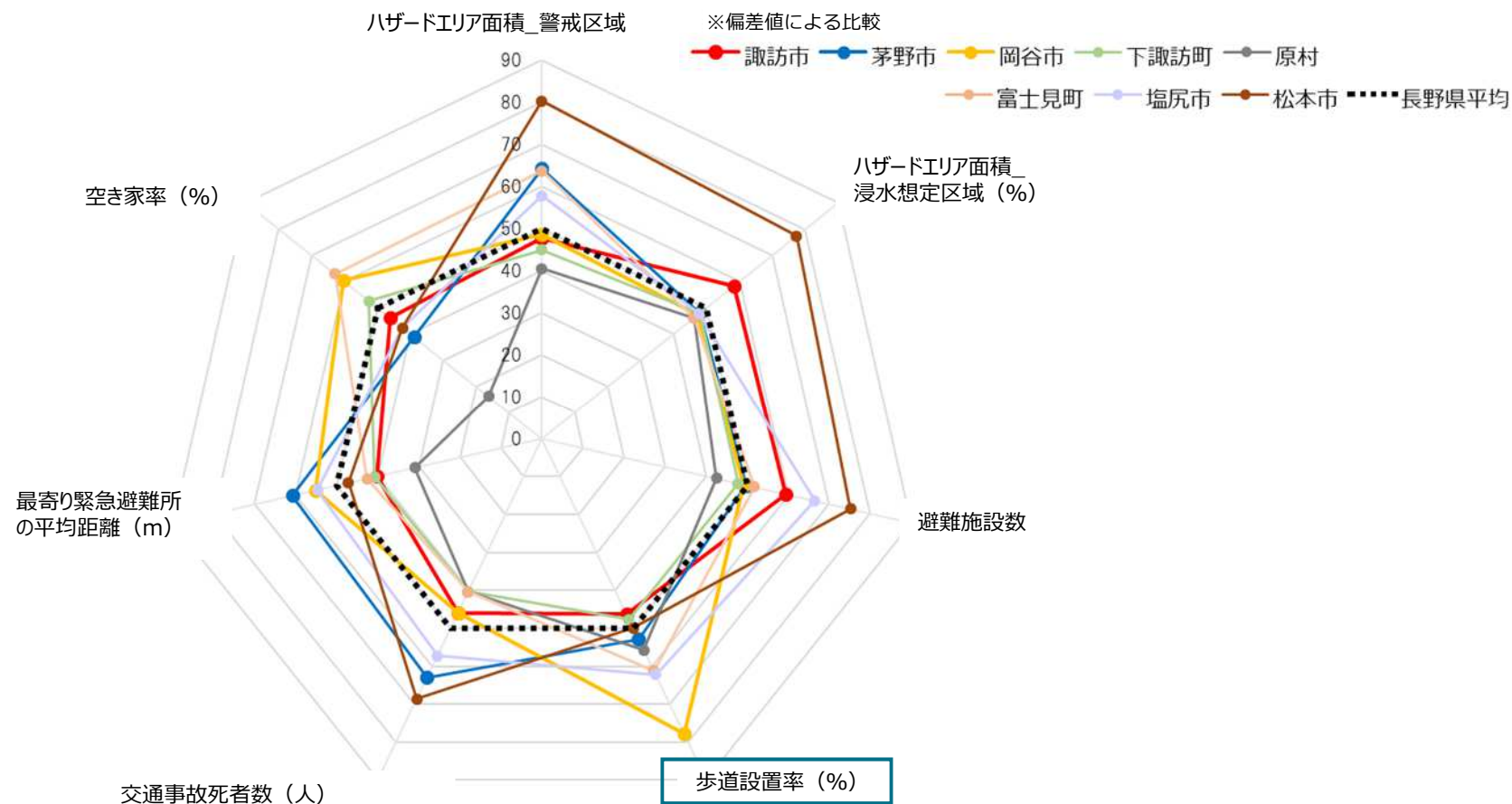
- ・ 土砂災害による被害を防止・軽減するため、危険の周知、警戒避難体制の整備を行う区域

出典：国土交通省資料

出典：諏訪市マルチハザードマップ2022

・市全体として周辺市町村に比べ、歩道設置率が低いことから、安心して歩ける環境が乏しいことが伺える

## ■安全・安心

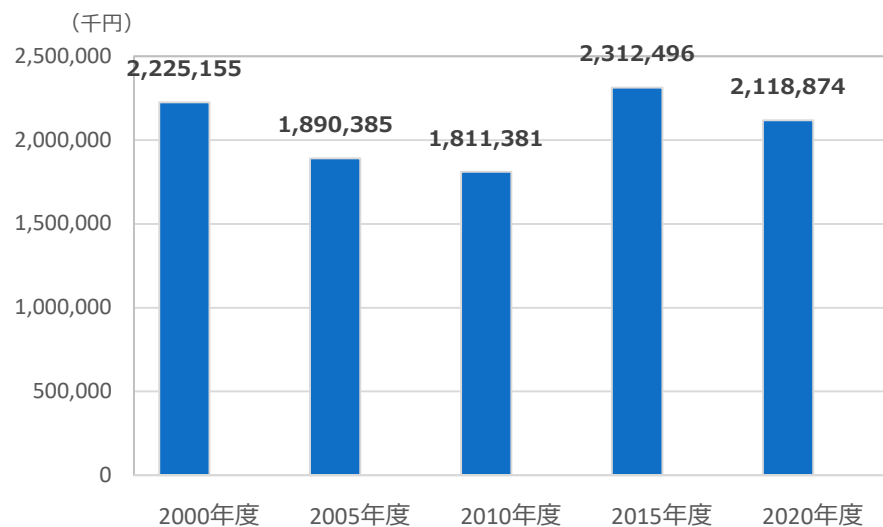


出典：都市モニタリングシート  
資料：e-Stat「都道府県・市区町村のすがた（社会・人口統計体系）」、その他の各種集計表データ（要データ編集）



- 教育費は、2000年度以降、20億円前後で推移

## ■教育

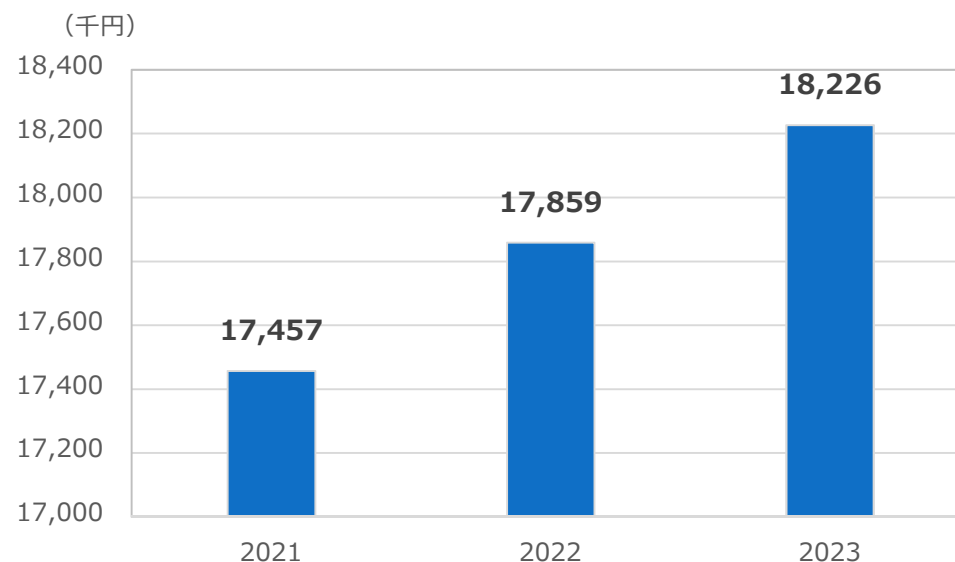


教育費（市一般会計歳出）の推移

出典：諏訪市資料

- 介護保険給付費は、2021年以降、年間2%程度の上昇が予想されている

## ■福祉（高齢者など）

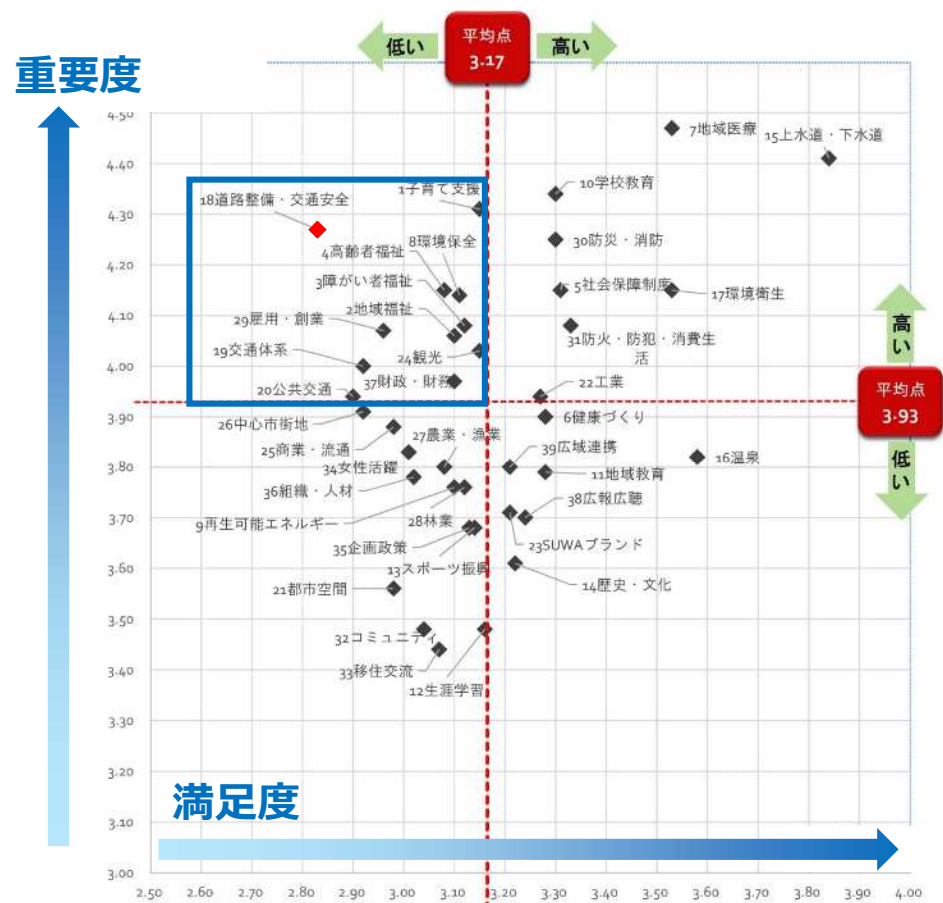


介護保険給付費の推計

出典：諏訪市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画

- 2020年度市民満足度のアンケート調査結果では、教育・福祉と交通に関する事項が、満足度が低く、重要度が高く位置付けられている
- 特に、道路整備・交通安全が重要度が高く満足度が低い結果となっている

## ■意向結果概要



出典：令和2年度市民満足度調査

## 総括

項目	現状と見通し	概況
JR上諏訪駅 乗客数	<ul style="list-style-type: none"> <li>1970年から2018年にかけて乗客数は約42%の減少。一日当たりで換算すると約3,000人減少</li> </ul>	<p>施設への徒歩でのアクセス利便性は高いが、道路整備環境が不十分であることや、駅周辺は施設などの分散立地が課題</p> <p>駅周辺では空き家・低未利用地の増加や防災への配慮が必要</p>
自動車保有台数	<ul style="list-style-type: none"> <li>1970年から2019年にかけて自動車保有数は約5.5倍、一人当たりの自動車保有率も5倍以上に増加</li> </ul>	
交通状況図	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣駅の中では、駅乗客数が最も多い</li> <li>多くの路線バスの平日運行本数が10本/日未満、</li> <li>東京方面と関西方面との間を長距離バスが結ぶ</li> </ul>	
都市機能（施設配置）	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市機能は、上諏訪駅を中心とした半径1km圏内程度を中心に散在</li> </ul>	
徒歩圏カバー率	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種施設への徒歩圏カバー率は、長野県平均を上回っており、かつ比較的上位にあることから、生活利便性が高い</li> </ul>	
土地利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅周辺は、住宅・商業用地・公共施設用地が多いが空地も散在</li> </ul>	
空き家・低未利用地分布	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き家は、特に上諏訪駅周辺に集中しており、250mメッシュ内に5軒以上存在している箇所が多く、空き家密度が高い</li> <li>空き地・低未利用地についても、駅周辺に多く点在しており、中心部の人口流出やそれに伴う市街地の空洞化が進み、地域コミュニティの維持や防犯、景観などに問題が生じるおそれがある</li> <li>1968年～2013年で、市内の空き家は8倍近く増加</li> </ul>	
浸水（100年に1度の確率）	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅周辺の居住誘導区域の多くのエリアが浸水深3.0m未満の浸水想定区域に入っている</li> </ul>	
土砂災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅東側（上諏訪小中学校周辺など）には、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域が複数指定されている</li> </ul>	
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> <li>市全体として周辺市町村に比べ、歩道設置率が低いことから、安心して歩ける環境が乏しいことが伺える</li> </ul>	
教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育費は、2000年度以降、20億円前後で推移</li> </ul>	
福祉（高齢者など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護保険給付費は、2021年以降、年間2%程度の上昇が予想されている</li> </ul>	
意向結果概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年度市民満足度のアンケート調査結果では、教育・福祉と交通に関する事項が、満足度が低く、重要度が高く位置付けられている</li> <li>特に、道路整備・交通安全が重要度が高く満足度が低い結果となっている</li> </ul>	

SUWA CENTRAL AREA VISION 2023

参考資料

## 上諏訪駅周辺まちなか未来ビジョン

官民連携上諏訪駅周辺未来ビジョン策定会議 /2023(令和5)年 3月